

(別表2-②)

作業療法学科 教育課程 (令和6年度以降入学の方)

1 基礎分野

科目	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
人文科学									
心理学	30						30	1	
倫理学	15						15	1	
医学英語		30					30	2	
社会科学									
社会学	15						15	1	
教育学	15						15	1	
人間関係論	15						15	1	
自然科学									
数学入門	15						15	1	
物理学		15					15	1	
化学	15						15	1	
生物学	30						30	2	
統計学		15					15	1	
保健体育									
レクリエーション実技	30						30	1	
スポーツ・レクリエーション		15					15	1	
スタディスキルズ									
スタディ・スキルズⅠ	15						15	1	
スタディ・スキルズⅡ		15					15	1	
基礎分野計	195	90					285	17	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
解剖学									
解剖学Ⅰ (1)	45						45	2	
解剖学Ⅰ (2)		45					45	2	
解剖学Ⅱ	60						60	2	
解剖学Ⅲ		60					60	2	
生理学									
生理学Ⅰ	60						60	2	
生理学Ⅱ		60					60	2	
運動学									
運動学Ⅰ	60						60	2	
運動学Ⅱ		60					60	2	
人間発達学									
人間発達学Ⅰ		15					15	1	
人間発達学Ⅱ			15				15	1	
小計	225	240	15				480	18	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進									
臨床心理学		30					30	1	
一般臨床医学		30					30	1	
内科学			30				30	1	
脳神経外科学			30				30	1	
整形外科Ⅰ			30				30	1	
整形外科Ⅱ				30			30	1	
神経内科学Ⅰ			30				30	1	
神経内科学Ⅱ				30			30	1	
精神医学Ⅰ			30				30	1	
精神医学Ⅱ				30			30	1	
小児科学			30				30	1	
病理学				30			30	2	
老年学			15				15	1	
臨床薬理学			15				15	1	
栄養学				15			15	1	
小計		60	210	135			405	16	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
障害福祉論	15						15	1	
リハビリテーション概論Ⅰ	15						15	1	◎
リハビリテーション概論Ⅱ		30					30	2	◎
公衆衛生学			15				15	1	
障害者スポーツ論			15				15	1	
小計	30	30	30				90	6	
専門基礎分野計	255	330	255	135			975	40	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	1	◎
基礎作業学		30					30	1	
基礎作業療法学実習Ⅰ	30						30	1	
基礎作業療法学実習Ⅱ	30						30	1	
作業療法理論概論					15		15	1	
レクリエーション概論			15				15	1	
レクリエーション療法演習				30			30	1	
小計	90	30	15	30	15		180	7	
作業療法管理学									
作業療法管理学					30		30	1	
多職種連携論			30				30	1	
小計			30		30		60	2	
作業療法評価学									
作業療法評価学概論	30						30	1	◎
作業療法評価学Ⅰ		60					60	2	◎
作業療法評価学Ⅱ			60				60	2	
小計	30	60	60				150	5	
作業療法治療学									
作業治療学の基礎			30				30	1	
中枢神経障害			30				30	1	
骨関節疾患			15				15	1	
神経筋疾患				15			15	1	
内部障害				15			15	1	
神経・心理障害Ⅰ			60				60	2	
神経・心理障害Ⅱ				60			60	2	
運動・発達障害Ⅰ			30				30	1	
運動・発達障害Ⅱ				30			30	1	
老年期障害				30			30	1	
義肢装具学				30			30	1	
高次脳機能障害				30			30	1	
職業関連活動				30			30	1	
補完代替療法					30		30	1	
作業療法総合演習Ⅰ		15					15	1	
作業療法総合演習Ⅱ				15			15	1	
作業療法総合演習Ⅲ（Ⅰ）					15		15	1	
作業療法総合演習Ⅲ（Ⅱ）						15	15	1	
作業療法総合演習Ⅳ（通年）					75	75	150	5	
小計		15	165	255	120	90	645	25	
地域作業療法学									
地域作業療法学Ⅰ		30					30	1	
地域作業療法学Ⅱ			30				30	1	
生活環境学				30			30	2	
小計		30	30	30			90	4	
臨床実習									
臨床実習Ⅰ（Ⅰ）	80						80	2	
臨床実習Ⅰ（Ⅱ）		40					40	1	
臨床実習Ⅱ				120			120	3	
臨床総合実習Ⅰ					320		320	8	
臨床総合実習Ⅱ						320	320	8	
小計	80	40	0	120	320	320	880	22	
専門分野計	200	175	300	435	485	410	2005	65	
総合計									
年次合計	650	595	555	570	485	410	3265	122	
	1245		1125		895		3265	122	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。
臨床実習にあつては1単位40時間とする。

(別表2-①)

作業療法学科 教育課程 (令和5年度以前入学の方)

1 基礎分野

科目	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
人文科学									
心理学	30						30	2	
倫理学	15						15	1	
社会科学									
社会学	15						15	1	
教育学	15						15	1	
人間関係論	15						15	1	
自然科学									
数学入門	15						15	1	
物理学		15					15	1	
化学	15						15	1	
生物学	30						30	2	
統計学		15					15	1	
保健体育	30						30	1	
医学英語		30					30	2	
基礎分野計	180	60					240	15	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
解剖学									
解剖学Ⅰ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅰ (2)	15						15	1	
解剖学Ⅱ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅱ (2)	15						15	1	
解剖学Ⅲ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅲ (2)	15						15	1	
生理学									
生理学 (1)	30						30	2	
生理学 (2)		30					30	2	
生理学実習 (1)	30						30	1	
生理学実習 (2)		30					30	1	
運動学									
運動学 (1)	30						30	2	
運動学 (2)		30					30	2	
運動学実習 (1)	30						30	1	
運動学実習 (2)		30					30	1	
人間発達学		30					30	2	
小計	210	150					360	20	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進									
臨床心理学		30					30	2	
一般臨床医学		30					30	2	
内科学			30				30	2	
脳神経外科学			30				30	2	
整形外科 (1)			30				30	2	
整形外科 (2)				15			15	1	
神経内科学 (1)			30				30	2	
神経内科学 (2)				15			15	1	
精神医学 (1)			30				30	2	
精神医学 (2)				15			15	1	
小児科学			30				30	2	
病理学				30			30	2	
小計		60	180	75			315	21	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
障害福祉論	15						15	1	
リハビリテーション概論 (1)	15						15	1	
リハビリテーション概論 (2)		30					30	2	
公衆衛生学			15				15	1	
小計	30	30	15				75	5	
専門基礎分野計	240	240	195	75			750	46	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	2	
基礎作業学		30					30	2	
基礎作業療法学実習Ⅰ	30						30	1	
基礎作業療法学実習Ⅱ	30						30	1	
基礎作業療法学実習Ⅲ	30						30	1	
レクリエーション療法演習			30				30	1	◎
小計	120	30	30				180	8	
作業療法管理学									
作業療法管理学				30			30	2	
小計				30			30	2	
作業療法評価学									
作業療法評価学概論	30						30	2	
作業療法評価学（1）		30					30	2	
作業療法評価学（2）			30				30	2	◎
作業療法評価学実習（1）		30					30	1	
作業療法評価学実習（2）			30				30	1	◎
小計	30	60	60				150	8	
作業療法治療学									
作業治療学Ⅰ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅰ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅱ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅱ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅲ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅲ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅳ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅳ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅴ（1）			30				30	2	◎
作業治療学Ⅴ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅵ				30			30	2	◎
作業治療学Ⅶ				30			30	2	
作業治療学Ⅷ				30			30	2	
臨床実習技能評価Ⅰ		30					30	2	
臨床実習技能評価Ⅱ				30			30	2	
臨床実習技能評価Ⅲ（1）					30		30	2	
臨床実習技能評価Ⅲ（2）						30	30	2	
小計		30	270	270	30	30	630	42	
地域作業療法学									
地域作業療法学（1）			30				30	2	
地域作業療法学（2）				30			30	2	
小計			30	30			60	4	
臨床実習									
臨床実習Ⅰ（1）	90						90	2	
臨床実習Ⅰ（2）		90					90	2	
臨床実習Ⅰ（3）			45				45	1	
臨床実習Ⅱ				180			180	4	
臨床総合実習Ⅰ					360		360	8	
臨床総合実習Ⅱ						360	360	8	
小計	90	90	45	180	360	360	1125	25	
専門分野計	240	210	435	510	390	390	2175	89	

4 選択必修科目

スタディ・スキルズ(1)	15						15	1	
スタディ・スキルズ(2)		15					15	1	
スポーツ・レクリエーション		15					15	1	
レクリエーション概論		15					15	1	
障害者スポーツ論		15					15	1	
作業療法理論概論				15			15	1	
補完代替療法概論				15			15	1	
卒業論文						15	15	1	
作業療法総合演習						45	45	3	
小計	15	60		30		60	165	11	
総合計	675	570	630	615	390	450	3330	161	
年次合計	1245		1245		840		3330	161	

1単位の授業時間は、講義・演習にあっては15～30時間、実験・実習・実技にあっては30～45時間とする。
臨床実習にあっては1単位45時間とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理学	田中 暁生	1	1	前期	必修

◇講義概要

「こころ」の問題を考えるための基本的視座を学ぶ。

◇到達目標

- ①学問および科学としての心理学の位置づけや方法論を理解する。
- ②心理学の諸分野の基礎知識を習得する。
- ③人間（および動物）の心と行動を客観的かつ論理的に分析して理解しようとする姿勢を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	心理学とは？	講義	
第2回	心の進化：心と行動の系統発生・種間比較	講義	
第3回	感覚と知覚①：感覚の分類，各種の感覚についての基礎知識	講義	
第4回	感覚と知覚②：視知覚の基礎知識を通して心と脳の不思議にせまる	講義	
第5回	記憶①：記憶の過程（段階）と分類，記憶の測定方法	講義	
第6回	記憶②：忘却と記憶障害，記憶と脳	講義	
第7回	学習①：古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）	講義	
第8回	学習②：道具的条件づけ（オペラント条件づけ）	講義	
第9回	性格：性格に関する理論，性格の測定方法	講義	
第10回	情動・感情：情動・感情に関する理論，情動・感情と認知の関係	講義	
第11回	社会的認知：印象形成，対人認知	講義	
第12回	心の発達①：乳児期～児童期の発達	講義	
第13回	心の発達②：青年期～老年期の発達	講義	
第14回	脳と心：脳の構造，脳と心（行動）の関係	講義	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	☒ 試験（ 50 %） ☒ 小テスト（ 50 %）	☐ 実技試験（ %） ☐ レポート（ %）	☐ 演習評価（ %） ☐ その他（ %）
------	--	--	---

教科書	授業で配布するプリントを基本とする。
参考図書	はじめて出会う心理学 第3版 （有斐閣アルマ）
留意事項	参考図書や配布された講義資料・課題などを利用して，予習・復習を行うこと。また，各回の授業で出題する小課題（小テスト）は適宜返却するとともに，誤解や不正解の多かった問題については授業内で解説するので，理解に努め，疑問点を解消すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	石毛 弓	1	1	前期	必修

◇講義概要

道徳、倫理の本質、起源、発達等の基本を学ぶ。医療倫理を含む。

◇到達目標

・倫理という考えの基礎を理解し、説明することができる ・倫理という考えの医療における必要性を理解し、説明することができる ・自分と他人の価値観の違いを理解したうえで、自分の考えを述べるすることができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	倫理学の基礎・価値観の差異を理解し共有する	講義	
第2回	功利主義の基礎・幸福について考える	講義	
第3回	生命倫理を考える1・医療倫理について	講義	
第4回	生命倫理を考える2・自己決定権について	講義	
第5回	生命倫理を考える3・死について	講義	
第6回	応用倫理学・情報倫理を中心に	講義	
第7回	倫理学と価値観のふりかえり・全体のまとめ	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (40 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☒ レポート (40 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	授業中に適宜紹介
留意事項	講義の前後に予習復習を行うこと。内容は授業内で指示する。グループワークがある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	福本 洋	1	2	後期	必修

◇講義概要

英語および簡単な英会話を通して専門分野の基礎を学ぶ。

◇到達目標

作業療法に関わる内容と有用な用語を習得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション Starting Out	講義	
第2回	1. The Four Keys to Successful Caregiving	講義	
第3回	2. Using Mobility and Lifting Aids	講義	
第4回	3. Helping People with Meals	講義	
第5回	4. Helping People Use the Toilet	講義	
第6回	5. Helping People with their Bath	講義	
第7回	6. Helping People with Dressing and Grooming	講義	
第8回	7. Helping People Change Their Position	講義	
第9回	8. Helping with Recreational Activities	講義	
第10回	9. Helping People to Communicate	講義	
第11回	10. Helping People Suffering from Disease and Illness	講義	
第12回	11. Helping Children to Develop	講義	
第13回	12. Helping with Domestic Duties in a Client's Home	講義	
第14回	Review 対話発表	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業中の活動及び発表 20%)
------	---

教科書	A Helping Hand 福祉・介護系学生のための総合英語—Comprehensive English for Caregivers (南雲堂)
参考図書	
留意事項	講義内容の予習、復習をすること。 講義後小テストを行います。小テストは返却しますので、間違ったところは、やり直して理解を深めること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	南園 節教	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会学の基礎的な用語ひとつ、人間と人間の関係について、対面で講義をする。 私たちが経験している「出来ごと」についても考察する。
--

◇到達目標

学生は、「私たちの日々の暮らしの中の人間と人間の関係」を考え、学問のひとつの領域としての「日常」を認識する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	社会学で学ぶこと 人間関係を通して、社会を理解する	講義	
第2回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第3回	研究方法としての調査	講義	
第4回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第5回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第6回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第7回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	日常の社会学 (南園節教 著)
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、演劇、映画、テレビ、読書 等の資料を提供する
留意事項	テキストを読んでおく (予習 10 分) テキストのその日の量を読む (復習 10 分)

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	田邊 匠	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育の目的、本質、方法、及び制度、行政等の基礎を学ぶ。

◇到達目標

本講義は、日本の教育について、教育制度をはじめとした基礎的な知識を身につけるとともに、さまざまな事例を通し、今日の日本の教育が直面する問題・課題を多面的に捉える視点を養うことを目標とする。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス：教育学とは何か	講義	
第2回	教育問題とは何か	講義	
第3回	学校教育制度の範囲	講義	
第4回	教育と福祉	講義	
第5回	教職をどのように捉えるか	講義	
第6回	教員の働き方	講義	
第7回	学校経営	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（提出物 30 %）
------	--

教科書	資料を配布する。
参考図書	その都度、授業中に提示する。
留意事項	本講義の構成は上記のとおりである。しかし、受講生の興味関心に沿って、その内容を多少変更する可能性がある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	池田 沙弥香	1	1	前期	必修

◇講義概要

小集団の法則性を追求し、その原理を利用者や他職種とのコミュニケーションに適用する技術を学ぶ。
--

◇到達目標

・お互いを尊重し合う姿勢をもつ医療・福祉に携わる人材としての素地を養うことができる ・自己肯定感の高い、心身共に健康な医療者（対人援助者）となるために必要な視点を養うことができる ・主体性をもって行動できる、自律した医療者（対人援助者）となるために必要なスキルを獲得できる ・基本的な医療技術者としてのコミュニケーション力を身につけた医療者（対人援助者）としての自覚を持つことができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	体験を通してコミュニケーションを考える	講義・演習	
第2回	自分を理解する～対人援助者としての準備～ (コンパニオンアニマル：犬参加)	講義	
第3回	人間関係と対人コミュニケーション	講義	
第4回	コミュニケーション能力を向上させよう (コンパニオンアニマル：犬参加)	講義	
第5回	自律した自分になるために (コンパニオンアニマル：犬参加)	講義	
第6回	マナーとしてのコミュニケーション (コンパニオンアニマル：犬参加)	講義	
第7回	臨床で役立つコミュニケーションの技法 (コンパニオンアニマル：犬参加)	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	PT・OT・STのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第3版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
数学入門	中園 正吾	1	1	前期	必修

◇講義概要

初歩的な四則計算の確認と方程式や関数の扱いを学ぶ。

◇到達目標

1. 作業療法に必要な（物理学、統計学を理解するための）数学について理解する。 2. 計算機を用いずに計算する力を養う。 3. 答えではなく、計算過程（思考過程の説明）であることを理解し、習慣づけることができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、四則演算	講義	
第2回	1次方程式	講義	
第3回	比の計算	講義	
第4回	平方根、関数	講義	
第5回	図形	講義	
第6回	ベクトル	講義	
第7回	速度・加速度	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	プリント配布。 物理学の教科書（川島圭司：PT/OT 国家試験対策ワークブック 計算問題（医歯薬出版））
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	各回の授業内容について予習すること。また、前回授業内容の復習をしてもらうこと。 毎回実施する小テストは返却するので活用して理解を深めること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
物理学	中園 正吾	1	1	後期	必修

◇講義概要

運動学の基礎として力学に重点をおき、科学的思考を学ぶ。

◇到達目標

1. 作業療法における力学の意義を説明できる。 2. 人体を含めた身の回りの運動について、基礎的な法則と理論的な現象を理解できる。 3. 計算機を用いずに、計算（関数・数式）する力を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、四則演算、比の計算	講義	
第2回	三角関数、速度と加速度	講義	
第3回	力と仕事、ベクトル	講義	
第4回	てこの計算	講義	
第5回	重心	講義	
第6回	滑車と輪軸、回転運動のトルクと仕事率（パワー）	講義	
第7回	まとめ（運動強度、神経伝導速度、その他の計算、基本統計量、四分表）	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（ 練習問題 20 %）
------	--

教科書	PT/OT 国家試験対策ワークブック 計算問題 （医歯薬出版）
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	前期「数学入門」を復習しておくこと。また、前回授業内容の復習をしておくこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
化学	井手 武	1	1	前期	必修

◇講義概要

物質の成分組織、構造、生成、分解等の基礎を学ぶ。

◇到達目標

『自然』と『いのち』をテーマとし、身近な物質や現象を見つめる化学、そして科学の眼差しを培う。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	化学知識の自己評価としてショートテスト実施、解答と解説	講義	
第2回	ビデオ『モデルで考える』、『紙が燃える』と『ヒトが生きている』の共通点は？	講義	
第3回	原子、分子、無機化合物と有機化合物、ビデオ『化学結合』	講義	
第4回	ビデオ『測る』	講義	
第5回	栄養の化学を考える	講義	
第6回	身体の中の化学を考える ビデオ『高分子化学合物』	講義	
第7回	レポート発表会	講義	
第8回	レポート発表会、まとめ	講義	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☒ レポート（ 60 %） ☒ その他（授業中口頭試問 20%）
------	--

教科書	「食べられる」科学実験セレクション (SB クリエイティブ)
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業の前後に予習・復習を行うこと

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	松本 英樹	1	2	前期	必修

◇講義概要

生物学/生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「生命（いのち）の大切さ」を認識し、弱者（患者）に寄り添える自己形成を目指す。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	生命の誕生・進化、ヒトの誕生（序章・第1章・第8章）	講義	
第2回	細胞の基本構造と機能（第1・2章）	講義	
第3回	酸素呼吸・エネルギー（ATP）合成（第2章）	講義	
第4回	同化・異化、消化酵素（第1・2章）	講義	
第5回	エネルギー（ATP）の利用（筋収縮・能動輸送・発光）（第7章）	講義	
第6回	神経系（感覚・運動・中枢）の構造と機能、神経情報伝達（第7章）	講義	
第7回	生体の恒常性、内分泌系（ホルモン）と自律神経系（第6章）	講義	
第8回	ほ乳動物の各臓器の構造と機能（第6章）	講義	
第9回	メンデル遺伝、ヒトの遺伝（血液型・色覚異常）（第4章）	講義	
第10回	細胞分裂、生殖/発生 of のしくみ（第3・5章）	講義	
第11回	ハツカネズミの解剖 （呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系）	講義	
第12回	DNA の構造・DNA 合成（DNA の半保存的複製）（第4章）	講義	
第13回	RNA 合成（転写）、タンパク質合成（翻訳）（第4章）	講義	
第14回	生物学講義のまとめ	講義	
第15回	直前試験対策（30分）/終講試験（60分）	講義／試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（中間テスト 20 %）
------	--

教科書	系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版（医学書院）
参考図書	(1) WEB 玉塾 「生物」・「解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ (2) 看護 roo 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
統計学	中園 正吾	1	1	後期	必修

◇講義概要

統計学の基本的な考え方を理解した上で、実際に各種の検定法を利用した演習を通して学ぶ。
--

◇到達目標

1. 作業療法における統計の意義を説明できる。 2. 各種データとその統計処理の関連性を理解できる。 3. 計算ソフト Excel を用いた計算（関数・数式）や統計処理（データ分析）に対する技能を身につける。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション Excel の復習、データ収集	講義・演習	
第2回	記述統計学 (1) データと尺度、データと情報	講義・演習	
第3回	記述統計学 (2) 代表値、散布値	講義・演習	
第4回	記述統計学 (3) 度数分布表とグラフ	講義・演習	
第5回	推計統計学 (1) 母集団と標本	講義・演習	
第6回	推計統計学 (2) 母平均と母比率の推定	講義・演習	
第7回	推計統計学 (3) 平均値の検定、まとめ	講義・演習	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	プリント配布
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	毎回 Microsoft Excel を使った演習を行います。 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。 試験はパソコンを使用し、その結果を回答用紙に記入してもらう形式で行います。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技	中西 信之	1	1	前期	必修

◇講義概要

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を学ぶ。 また、活動の中で障がい者スポーツの理解を図ることも目的とする。

◇到達目標

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を修得する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	レクを楽しむ	講義・演習	
第3回	グループレクリエーションサポーター研修1	講義・演習	
第4回	グループレクリエーションサポーター研修1	講義・演習	
第5回	アイサポート運動	講義・演習	
第6回	レクリエーション総論	講義・演習	
第7回	レクリエーション実技1	講義・演習	
第8回	レクリエーション実技2	講義・演習	
第9回	レクリエーション実技3	講義・演習	
第10回	レクリエーション実技4	講義・演習	
第11回	レクリエーションリーダー研修1	講義・演習	
第12回	レクリエーションリーダー研修2	講義・演習	
第13回	レクリエーションリーダースキルトレ	講義・演習	
第14回	レクリエーションダンス	講義・演習	
第15回	レポートテスト	講義・演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施。運動は学校の指定・上靴使用。※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります。 資格取得科目につき現場実習が課せられます。 修了資格登録あり。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スポーツ・レクリエーション	中西 信之	1	1	後期	必修

◇講義概要

健康寿命の延伸のために、からだを動かすことの喜びと健康的な社会生活の構築を図れるよう、スポーツを通して学ぶ。並行してレクリエーション概論・パラスポーツを学ぶ。

◇到達目標

スポーツレクリエーション科目を通してレクリエーション技術や障害者スポーツについて理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	パラスポーツ総論1	講義	
第2回	パラスポーツ総論2	講義・演習	
第3回	パラスポーツと障害の理解	講義・演習	
第4回	スポーツのインテグリティ	講義・演習	
第5回	視覚障害者のスポーツ	講義・演習	
第6回	重度障害者のスポーツ	講義・演習	
第7回	児童発達とスポーツ	講義・演習	
第8回	児童交流会	講義・演習	

評価方法	☐ 試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (50 %)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (50 %)	☐ その他 (%)

教科書	なし
参考図書	レクリエーション支援の基礎・レクリエーションの理論と方法・障害者スポーツ論
留意事項	最終外部活動あり（詳細は授業内で伝達）。 レクリエーション資格取得科目につき現場実習を課す。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スタディ・スキルズⅠ	島本 良重	1	1	前期	必修

◇講義概要

学生として「学ぶ」ためには、基本的な「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」等が必要である。それらの力を身につけるため段階的に学ぶ。

◇到達目標

・タイム・マネジメントの技術を身につける(目標を設定する, スケジュールをたてる) ・講義ノートをとるスキルを身につける ・テキストに応じて読み方を変える ・パソコンで作成したレポートが作成できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ノート・ティキング (講義に応じたノート・ティキング, メモ)	講義・演習	
第2回	リーディングの基本スキル (テキストの種類, 読みの種類, マーキング)	講義・演習	
第3回	アカデミック・ライティングの基本スキル (レポートの書き方等)	講義・演習	
第4回	文書作成 Word の基礎・入門	講義・演習	
第5回	文書作成 Word の活用	講義・演習	
第6回	文書作成 Word の活用 (2) レポート作成	講義・演習	
第7回	課題提出 Word でレポート作成	講義・演習	
第8回	まとめ 課題提出 紙ファイルに資料を収納提出	講義・演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☒ 小テスト (20 %) ☒ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	知へのステップ 第5版 大学生からのスタディ・スキルズ (くろしお出版) 必要に応じ資料配布を行う。
参考図書	
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習復習や資料整理をすること。 準備品：紙ファイル (2穴のもの), インデックス付箋, クリアファイル, ビニールファイル

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スタディ・スキルズⅡ	島本 良重	1	1	後期	必修

◇講義概要

学生として「学ぶ」ためには、基本的な「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」等が必要である。それらの力を身につけるため段階的に学ぶ。

◇到達目標

- ・必要とされる情報を文献やweb検索で収集することができる
- ・アカデミック・ライティング（情報収集・検索の方法、情報の整理、論文作法→引用のつけ方・注・参考文献の書き方）ができる
- ・プレゼンテーションの基本スキルを身につけプレゼンテーションすることができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	プレゼンテーションについて総論 引用のつけ方など	講義・演習	
第2回	プレゼンテーションの基本スキル	講義・演習	
第3回	Power Point の基礎 構成	講義・演習	
第4回	Power Point の基礎 UD フォント、色彩、表、図	講義・演習	
第5回	Power Point の応用 アニメーション	講義・演習	
第6回	Power Point のまとめ 発表者ツール作成	講義・演習	
第7回	発表（前半）	講義・演習	
第8回	発表（後半）	講義・演習	

評価方法	☒ 試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	知へのステップ 第5版 大学生からのスタディ・スキルズ（くろしお出版） 配布資料
参考図書	逐次紹介するので、参考にすること
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習、復習や資料整理をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅰ（Ⅰ）	秦野 修	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の骨格系、関節、靱帯等について系統的に学ぶ。小テストを行う。講義と演習を行う。

◇到達目標

人体の骨格系、関節、靱帯等について説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 解剖学総論 解剖学用語と人体の区分	講義	
第2回	骨学実習 オリエンテーション	演習	
第3回	組織学総論	講義	
第4回	脊柱の骨	演習	
第5回	骨学総論 骨の形態と構造、血管と神経、骨の機能と発生	講義	
第6回	脊柱、胸郭の骨①	演習	
第7回	脊柱、胸郭の骨②	講義	
第8回	脊柱、胸郭の骨③	演習	
第9回	上肢の骨①	講義	
第10回	上肢の骨②	演習	
第11回	下肢の骨①	講義	
第12回	下肢の骨②	演習	
第13回	中間試験	試験	
第14回	頭蓋の骨①	講義／演習	
第15回	頭蓋の骨②	講義	
第16回	頭蓋の骨③	演習	
第17回	関節・靱帯総論 骨の連結、関節の構造と機能	講義	
第18回	脊柱と頭蓋および胸郭の連結	演習	
第19回	上肢の連結①	講義	
第20回	上肢の連結②	演習	
第21回	下肢の連結①	講義	
第22回	下肢の連結②	演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	試験	試験	
--------	----	----	--

評価方法	☒ 試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☒ 小テスト+レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 6 版 (医学書院) ネッター解剖学カラーリングテキスト 原書第 3 版 (南江堂)
参考図書	適宜紹介する。 骨学実習アトラス (日本医時新報社)、 図解解剖学事典 第 3 版 (医学書院)
留意事項	予習：教科書の図表と太字に着目して予習すること。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅰ（2）	秦野 修	1	2	後期	必修

◇講義概要

人体の骨格系、筋系、関節等を系統的に学ぶと共に、局所解剖学、体表解剖学において諸構造の形状とその位置関係を学ぶ。小テストを行う。講義と演習を行う。

◇到達目標

人体の骨格系、筋系、関節等を系統的に説明できる。
体表からの観察、触察により人体の諸構造を同定できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	筋系総論 筋組織の種類、骨格筋の構造と作用、支配神経①	講義	
第2回	筋系総論 筋組織の種類、骨格筋の構造と作用、支配神経②	講義／演習	
第3回	頭蓋、体幹の筋①	講義	
第4回	頭蓋、体幹の筋②	講義／演習	
第5回	上肢の筋①	講義	
第6回	上肢の筋②	講義／演習	
第7回	上肢の筋③	講義／演習	
第8回	下肢の筋①	講義	
第9回	下肢の筋②	講義／演習	
第10回	下肢の筋③	講義／演習	
第11回	中間試験	試験	
第12回	局所解剖学オリエンテーション（局所解剖学と体表解剖学）	講義／演習	
第13回	上肢の局所解剖学 上腕部、肘部、前腕部①	講義	
第14回	上肢の局所解剖学 上腕部、肘部、前腕部②	講義／演習	
第15回	手部、寛骨部の局所解剖学 手根部、手部、寛骨部①	講義	
第16回	手部、寛骨部の局所解剖学 手根部、手部、寛骨部②	講義／演習	
第17回	下肢の局所解剖学 大腿、膝部、下腿部、足根部、足部①	講義	
第18回	下肢の局所解剖学 大腿、膝部、下腿部、足根部、足部②	講義／演習	
第19回	体幹の局所解剖学 頭頸部、胸腹部①	講義	
第20回	体幹の局所解剖学 頭頸部、胸腹部②	講義／演習	
第21回	体幹の局所解剖学 腰背部、局所解剖学まとめ	講義／演習	
第22回	人体発生学	講義	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	試験	試験	
--------	----	----	--

評価方法	☒ 試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☒ 小テスト+レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 6 版 (医学書院) ネッター解剖学カラーリングテキスト 原書第 3 版 (南江堂)
参考図書	適宜紹介する。 ネッター解剖学アトラス 原著第 7 版 (南江堂)
留意事項	予習：教科書の図表と太字に着目して予習すること。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ	内海 眞子	1	2	前期	必修

◇講義概要

多種多様である人体の構造と機能について説明する

- (1) 人体全体の血管の構造と機能、それに関連しているリンパの走行と機能の概要について
- (2) 人体内部の構造と機能の概要について

◇到達目標

1. 人体の循環器系（細胞の活動に必要な物質の運搬、不要物質の回収するための流れ）の以下の内容が説明できる
 - (1) 心臓の構造と機能
 - (2) 血管系の各名称と構造
 - (3) リンパ系の構造と機能
 - (4) 胎児の循環系について
2. 人体の内臓の構造と機能を各分野に分け、詳細に身につける
消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	循環器系総論	講義	
第2回	循環器系各論 A血管系 1心臓	講義	
第3回	2循環器系の分類・肺循環	講義	
第4回	3体循環：動脈系 上行大動脈・大動脈弓	講義	
第5回	動脈系 胸大動脈	講義	
第6回	動脈系 腹大動脈	講義	
第7回	総復習（体循環）	講義	
第8回	4中枢神経の血管系（動脈・静脈）	講義	
第9回	脊髄・硬膜・脳	講義	
第10回	5体循環：静脈系 総論	講義	
第11回	静脈系 特殊循環系	講義	
第12回	静脈系 上大静脈・下大静脈	講義	
第13回	6胎児の血液循環	講義	
第14回	Bリンパ系	講義	
第15回	第1回試験	試験	
第16回	内臓学総論 内臓器官の基本構造	講義	
第17回	各論 1消化器系 口腔～食道	講義	
第18回	消化器系 胃～大腸	講義	
第19回	消化器系 肝臓～腹膜	講義	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第20回	2 呼吸器系 鼻～咽頭	講義	
第21回	呼吸器系 喉頭～胸膜・縦隔	講義	
第22回	総復習（消化器系・呼吸器系）	講義	
第23回	3 泌尿器系 腎臓・尿管	講義	
第24回	泌尿器系 膀胱・尿道	講義	
第25回	生殖器系 男性生殖器	講義	
第26回	生殖器系 女性生殖器	講義	
第27回	4 内分泌系 ホルモンと標的器官	講義	
第28回	内分泌系 下垂体～上皮小体	講義	
第29回	内分泌系 副腎～胸腺	講義	
第30回	総復習（泌尿生殖器系・内分泌系）	講義	
第31回	第2回試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版（医学書院）
参考図書	特になし
留意事項	教科書に沿って行う為、必ず範囲を一読しておく事 授業中のポイントを理解して習得する事 2回の筆記試験を実施する 小テスト分（20%）と筆記試験（80%）で1回の成績を判定する 2回の成績の合計点を2で割ったものが60点以上である事

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ	内海 眞子	1	2	後期	必修

◇講義概要

生体内外の環境の変化に関与するための種々の機能がある。その機能の一つでもある神経系（中枢神経、末梢神経）、感覚器についての概要を詳細に説明する。

◇到達目標

1. 人体の伝達作用を担当する神経系について理解習得する。末梢神経（脊髄神経、脳神経、自律神経）について詳細に理解し、説明ができる。
2. 人間の生命を支えるために、どのようなシステムが働いているかを知る。中枢神経系と感覚器（皮膚感覚・視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚）について説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	神経系（中枢神経系、末梢神経系）の総論	講義	
第2回	各論 脊髄神経 頸神経 後枝・前枝（頸神経叢）	講義	
第3回	頸神経 前枝（腕神経叢）	講義	
第4回	胸神経	講義	
第5回	腰神経 後枝	講義	
第6回	腰神経 腰神経叢	講義	
第7回	仙骨神経 後枝・前枝（仙骨神経叢）	講義	
第8回	仙骨神経 坐骨神経・尾骨神経	講義	
第9回	各脊髄神経の損傷・麻痺	講義	
第10回	総復習（脊髄神経）	講義	
第11回	各論 脳神経の総論、第1脳神経～第4脳神経、第6脳神経	講義	
第12回	脳神経 第5脳神経、第7脳神経～第12脳神経	講義	
第13回	自律神経系 交感神経	講義	
第14回	副交感神経・腸壁内神経	講義	
第15回	第1回試験	試験	
第16回	神経学 神経学全般	講義	
第17回	中枢神経 1 脊髄	講義	
第18回	2 脳脊髄膜と脳脊髄液	講義	
第19回	3 脳幹（延髄）	講義	
第20回	脳幹（橋・中脳）	講義	
第21回	4 小脳	講義	

令和7年度 作業療法学 学科 シラバス

第22回	5 間脳	講義	
第23回	6 終脳 大脳半球、表面と区分	講義	
第24回	終脳 大脳皮質の機能局在	講義	
第25回	7 神経路 上行性神経路	講義	
第26回	神経路 下行性神経路	講義	
第27回	感覚器 1 外皮 2 視覚器	講義	
第28回	2 視覚器	講義	
第29回	3 聴覚器、平衡覚	講義	
第30回	4 嗅覚器、 5 味覚器	講義	
第31回	第2回試験	試験	

評価方法	■試験 (80 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (20 %)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 (医学書院)
参考図書	特になし
留意事項	教科書に沿って行う為、必ず範囲を一読しておく事 授業中のポイントを理解して習得する事 2回の筆記試験を実施する 小テスト分(20%)と筆記試験(80%)で1回の成績を判定する 2回の成績の合計点を2で割ったものが60点以上である事

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学 I	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、細胞、組織、皮膚、骨、筋、血液、循環器、呼吸器において、これらの生理機能をその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	生理学とは？－ホメオスタシス	講義	
第2回	生理学とは？－フィードバック機構	講義	
第3回	細胞と組織(1)－細胞の機能	講義	
第4回	細胞と組織(2)－組織の機能	講義	
第5回	皮膚と膜(1)－膜の機能	講義	
第6回	皮膚と膜(2)－皮膚と機能	講義	
第7回	皮膚と膜(3)－体熱産生、体温	講義	
第8回	骨格系(1)－骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第9回	骨格系(2)－頭蓋、体幹・体肢の骨格	講義	
第10回	骨格系(3)－関節	講義	
第11回	筋系(1)－筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第12回	筋系(2)－活動電位、運動単位、脊髄反射	講義	
第13回	筋系(3)－骨格筋	講義	
第14回	血液(1)－血球分化、機能	講義	
第15回	血液(2)－ヘモグロビン、血液型	講義	
第16回	循環器系(1)－心臓の機能	講義	
第17回	循環器系(2)－興奮収縮連関、血圧	講義	
第18回	循環器系(3)－胎児循環、リンパ系	講義	
第19回	呼吸器系(1)－外呼吸、ガスの運搬、酸素解離曲線	講義	
第20回	呼吸器系(2)－呼吸調節	講義	
第21回	実習1－体温調節機能実習（実験データの取得）	演習	
第22回	実習1－体温調節機能実習（実習レポート作成）	演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	実習2－循環調節機能基礎実習（実験データの取得）	演習	
第24回	実習2－循環調節機能基礎実習（実習レポート作成）	演習	
第25回	実習3－循環調節機能応用実習1－運動負荷等（実験データの取得）	演習	
第26回	実習3－循環調節機能応用実習1－運動負荷等（実習レポート作成）	演習	
第27回	実習4－循環調節機能応用実習2－息こらえ等（実験データの取得）	演習	
第28回	実習4－循環調節機能応用実習2－息こらえ等（実習レポート作成）	演習	
第29回	試験	試験	
第30回	解説	講義	

評価方法	☒ 試験（ 62 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 8 %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☒ レポート（ 5 %） ☒ その他（グループ発表 5 %）
------	---

教科書	ナースング・グラフィカ 人体の構造と機能（1） 解剖生理学 第5版 （メディカ出版） ナースング・サプリー イメージできる解剖生理学 第2版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 （医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学Ⅱ	坂田 進	1	2	後期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、消化器、腎、内分泌腺、生殖器、脳、感覚器、免疫系において、これらの生理機能をその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	消化器系(1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第2回	消化器系(2)－消化の生理	講義	
第3回	消化器系(3)－吸収の生理	講義	
第4回	消化器系(4)－排泄の生理	講義	
第5回	泌尿器系(1)－腎の生理	講義	
第6回	泌尿器系(2)－排尿の生理	講義	
第7回	内分泌系(1)－ホルモンの種類と作用、脳ホルモン	講義	
第8回	内分泌系(2)－甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	講義	
第9回	内分泌系(3)－膵ホルモン、副腎ホルモン	講義	
第10回	内分泌系(4)－性腺ホルモン、腎ホルモン、心臓ホルモン	講義	
第11回	生殖器系(1)－女性生殖器の生理	講義	
第12回	生殖器系(2)－男性生殖器の生理	講義	
第13回	神経系(1)－神経膠細胞、ニューロン、シナプス	講義	
第14回	神経系(2)－中枢神経系	講義	
第15回	神経系(3)－末梢神経系	講義	
第16回	神経系(4)－生体リズム	講義	
第17回	感覚系(1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第18回	感覚系(2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第19回	免疫系(1)－自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第20回	免疫系(2)－アレルギー、自己免疫疾患	講義	
第21回	実習1－視覚機能の測定（実験データの取得）	演習	
第22回	実習1－視覚機能の測定（実習レポート作成）	演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	実習 2－重量感覚の測定（実験データの取得）	演習	
第 24 回	実習 2－重量感覚の測定（実習レポート作成）	演習	
第 25 回	実習 3－味覚機能の測定（実験データの取得）	演習	
第 26 回	実習 3－味覚機能の測定（実習レポート作成）	演習	
第 27 回	実習 4－計算能力に及ぼすカフェインの影響（実験データの取得）	演習	
第 28 回	実習 4－計算能力に及ぼすカフェインの影響（実習レポート作成）	演習	
第 29 回	試験	試験	
第 30 回	解説	講義	

評価方法	☒ 試験（ 62 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 8 %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	ナースিং・グラフィカ 人体の構造と機能（1） 解剖生理学 第 5 版 （メディカ出版） ナースিং・サプリー イメージできる解剖生理学 第 2 版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 （医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学 I	東田 充康	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体構造と機能を知るために、総論（力学、運動器官、運動分析、動作分析）と各論（姿勢、歩行、呼吸運動、靱帯と関節を含めた四肢の関節運動）について学ぶ。運動学実習を含む。

◇到達目標

- ・専門用語を適切に用いることができる。
- ・関節運動の面と軸や関節の形状、そして運動器官の構造・機能を理解する。
- ・上肢、下肢、体幹、頭部の各部位の名称や運動を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（身体運動入門）	講義・演習	
第2回	オリエンテーション（身体運動入門）	講義・演習	
第3回	生体力学モデルと作業療法の関連	講義・演習	
第4回	生体力学モデルと作業療法の関連	講義・演習	
第5回	身体運動学の基礎	講義・演習	
第6回	身体運動学の基礎	講義・演習	
第7回	身体運動の面と軸（基本肢位、運動の面と軸）	講義・演習	
第8回	身体運動の面と軸（基本肢位、運動の面と軸）	講義・演習	
第9回	上肢・上肢帯の運動総論（上肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義・演習	
第10回	上肢・上肢帯の運動総論（上肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義・演習	
第11回	上肢帯と肩関節での上腕の運動	講義・演習	
第12回	上肢帯と肩関節での上腕の運動	講義・演習	
第13回	肘関節と前腕の運動	講義・演習	
第14回	肘関節と前腕の運動	講義・演習	
第15回	手関節と手の運動	講義・演習	
第16回	手関節と手の運動	講義・演習	
第17回	下肢・下肢帯の運動総論（下肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義・演習	
第18回	下肢・下肢帯の運動総論（下肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義・演習	
第19回	下肢帯と股関節の運動	講義・演習	
第20回	下肢帯と股関節の運動	講義・演習	
第21回	膝関節の運動	講義・演習	
第22回	膝関節の運動	講義・演習	
第23回	足関節と足の運動	講義・演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 24 回	足関節と足の運動	講義・演習	
第 25 回	体幹の運動（頸椎、胸椎、腰椎）	講義・演習	
第 26 回	体幹の運動（頸椎、胸椎、腰椎）	講義・演習	
第 27 回	顔面および頭部の運動	講義・演習	
第 28 回	顔面および頭部の運動	講義・演習	
第 29 回	まとめ	演習	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	基礎運動学 第 7 版（医歯薬出版） PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第 3 版（医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介する
留意事項	質問するなど積極的に参加してください 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学Ⅱ	東田 充康	1	2	後期	必修

◇講義概要

運動は全ての作業遂行の基礎となる。作業を遂行するために身体に求められる「安定性」と「運動」をどのように作り出すのか知るため、運動器を中心に正常状態と異常状態を学習する。具体的には総論（力学、運動器官、運動分析、動作分析）と各論（姿勢、歩行、呼吸運動、靱帯と関節を含めた四肢の関節運動）。

◇到達目標

- ・身体の仕組み（触診）や姿勢制御などの成り立ち、変化（学習）について理解できる。
- ・呼吸運動、運動学習について理解ができる。
- ・専門用語を適切に用いて、作業と動作の分析ができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	オリエンテーション	講義・演習	
第3回	ヒトの姿勢（体位と構え）	講義・演習	
第4回	ヒトの姿勢（体位と構え）	講義・演習	
第5回	姿勢とその制御（重心と姿勢戦略）	講義・演習	
第6回	姿勢とその制御（重心と姿勢戦略）	講義・演習	
第7回	胸郭運動と呼吸	講義・演習	
第8回	胸郭運動と呼吸	講義・演習	
第9回	運動学習	講義・演習	
第10回	運動学習	講義・演習	
第11回	歩行と走行の基礎	講義・演習	
第12回	歩行と走行の基礎	講義・演習	
第13回	正常歩行	講義・演習	
第14回	正常歩行	講義・演習	
第15回	高齢者、小児の歩行	講義・演習	
第16回	高齢者、小児の歩行	講義・演習	
第17回	作業と動作の分析入門	講義・演習	
第18回	作業と動作の分析入門	講義・演習	
第19回	動作分析と運動分析	講義・演習	
第20回	動作分析と運動分析	講義・演習	
第21回	下肢・下肢帯の分析	講義・演習	
第22回	下肢・下肢帯の分析	講義・演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	頸部・体幹の分析	講義・演習	
第 24 回	頸部・体幹の分析	講義・演習	
第 25 回	上肢・上肢帯の分析	講義・演習	
第 26 回	上肢・上肢帯の分析	講義・演習	
第 27 回	日常生活動作（ADL）の分析	講義・演習	
第 28 回	日常生活動作（ADL）の分析	講義・演習	
第 29 回	まとめ	講義・演習	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	基礎運動学 第 7 版 （医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介する PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第 3 版 （医歯薬出版）
留意事項	質問するなど積極的に参加してください 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間発達学Ⅰ	黒田 真由美	1	1	後期	必修

◇講義概要

人間に対する理解の基礎として、小児期・青年期における知的・心理的・社会的人格の発達を学ぶ。

◇到達目標

生涯を通じた発達について理解を深める。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	発達心理学の研究法	講義	
第2回	遺伝と環境	講義	
第3回	生理的早産	講義	
第4回	新生児期 乳児期	講義	
第5回	愛着理論	講義	
第6回	ピアジェ理論	講義	
第7回	青年期から老年期	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (30 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	授業中に指示する
留意事項	プリントを配布する。小テストの解答とあわせて復習すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間発達学Ⅱ	池田 沙弥香	2	1	前期	必修

◇講義概要

人間に対する理解の基礎として、主に小児期における身体と運動の発達を学ぶ。

◇到達目標

・ 定型発達についての理解を深め、運動発達のプロセスと発達支援の関連を説明することができる。 ・ 応用動作の背景にある基本的な運動機能と認知機能の発達を理解することができる。 ・ 子どもの諸機能の発達段階と生活の関係を理解してアプローチを考えることができるようになる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	セルフケアの発達と遊び	講義	
第2回	認知・思考機能の発達	講義	
第3回	コミュニケーション機能の発達 ※コンパニオンアニマル同行授業	講義	
第4回	姿勢・運動発達とその背景（粗大運動発達、微細運動発達）	講義	小テスト
第5回	姿勢・運動発達とその背景（第4回の復習と原始反射、口腔機能）	講義	
第6回	子どもの発達と遊び	講義・演習	小テスト
第7回	感覚統合機能の発達	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	はじめて出会う心理学 第3版 （有斐閣アルマ）
留意事項	授業理解のために、予習・復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学	大村 枝里	1	1	後期	必修

◇講義概要

主として精神疾患患者に対する心理的理解を深められるよう学ぶ。

◇到達目標

臨床心理学の基礎的な学びに基づいて、ひとのこころのあり様を理解することができる。また、そのことを踏まえて臨床的な関わりとは何かを自分で考え、実践につなげることができる。さらに、ワークでの体験やディスカッションによって生じる「今・ここ」でのこころの動きに触れ、そのことについて考えることで、ひとのこころについて体験的に理解し、これからの実践に活かすことができる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	臨床心理学の歴史	講義	
第3回	心理療法とは	講義	
第4回	人間の発達とライフサイクル	講義	
第5回	臨床心理士の仕事・診断と見立て	講義	
第6回	心の構造と防衛機制	講義	
第7回	神経症	講義	
第8回	精神病	講義	
第9回	パーソナリティ障害	講義	
第10回	うつ	講義	
第11回	摂食障害	講義	
第12回	心理検査	講義	
第13回	発達障害	講義	
第14回	表現療法	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ そ の 他 (%)
------	--

教科書	毎回の授業でレジメを配布。
参考図書	授業内で随時紹介。
留意事項	毎回の授業で小テストの受験と感想シートの記入が必須となる。また、1回の講義あたり60分の予習・復習を行うこと。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
一般臨床医学	土井 通靖 他	1	1	後期	必修

◇講義概要

臨床医学全般を概観し、救急救命医学や予防医学を含む基礎的知識を学ぶ。

◇到達目標

各科における、主要な疾患とその症状について説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	外科	講義	
第 2 回	外科	講義	
第 3 回	脳外科	講義	
第 4 回	脳外科	講義	
第 5 回	老年医学	講義	
第 6 回	泌尿器科	講義	
第 7 回	泌尿器科	講義	
第 8 回	内科	講義	
第 9 回	内科	講義	
第 10 回	内科	講義	
第 11 回	産婦人科	講義	
第 12 回	産婦人科	講義	
第 13 回	耳鼻咽喉科	講義	
第 14 回	耳鼻咽喉科	講義	
第 15 回	眼科	講義	
第 16 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 (医歯薬出版)
参考図書	
留意事項	講義の前後に予習、復習を行うこと。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	竹澤 祐一	2	1	前期	必修

◇講義概要

内科疾患は多岐にわたるため臓器別・系統別の各論を説明し、個々の内科疾患の理解を促したうえで診断などの総論を解説する。
--

◇到達目標

内科疾患を理解し、対象者の全身状態の把握が可能となることにより、リハビリテーションを効率よく安全に行うことができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	内科学とは 循環器疾患 1	講義	
第 2 回	循環器疾患 2	講義	
第 3 回	呼吸器疾患 1	講義	
第 4 回	呼吸器疾患 2	講義	
第 5 回	消化器疾患	講義	
第 6 回	肝胆膵疾患	講義	
第 7 回	血液・造血器疾患	講義	
第 8 回	代謝性疾患	講義	
第 9 回	内分泌疾患	講義	
第 10 回	腎・泌尿器疾患	講義	
第 11 回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	講義	
第 12 回	感染症	講義	
第 13 回	リハビリテーションに必要な栄養学 症候学	講義	
第 14 回	内科学診断と治療の実際	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 5 版 (医学書院)
参考図書	なし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
脳神経外科学	前川 基継	2	1	前期	必修

◇講義概要

中枢および末梢神経系の基礎的知識と神経疾患や病態の基礎的知識を学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

脳神経外科疾患を理解し、基礎的な知識を身につけることにより、各疾患に対するリハビリテーションの必要性を理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科緒論： 脳神経外科の歴史、脳神経外科で扱う疾患、脳の臓器特殊性等を理解する	講義	
第2回	脳・脊髄の臨床解剖： 頭蓋と頭蓋内腔構造、髄膜、脳室と髄液循環について学ぶ	講義	
第3回	脳・脊髄の臨床解剖： 大脳、脳幹、小脳、脊髄の解剖と機能・局所徴候を理解する	講義	
第4回	脳・脊髄の臨床解剖： 脳神経の機能、主要脳血管の走行・支配領域について学ぶ	講義	
第5回	神経学的検査： 精神状態、脳神経、運動・感覚等の機能障害の診かたを学ぶ	講義	
第6回	脳神経疾患の補助診断法： 脳疾患に対する画像診断検査、脳波、髄液検査等につき学ぶ	講義	
第7回	脳に特異的な症候と病態： 意識障害や頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、血液脳関門等につき学ぶ	講義	
第8回	脳腫瘍： 脳腫瘍の分類、発生頻度、症状、診断、治療法につき概括を把握する	講義	
第9回	脳腫瘍： 神経膠腫、髄膜腫など各脳腫瘍の特徴を理解する	講義	
第10回	脳血管障害： 脳血管障害の疫学、出血性脳血管障害について学ぶ	講義	
第11回	脳血管障害： 虚血性脳血管障害、もやもや病について学ぶ	講義	
第12回	頭部外傷： 頭皮損傷、頭蓋骨骨折、外傷性頭蓋内出血、脳挫傷等について学ぶ	講義	
第13回	機能的脳神経外科、炎症性疾患： 頭痛、癲癇などと髄膜炎など頭蓋内感染症につき学ぶ	講義	
第14回	総復習	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

教科書	標準脳神経外科学 第 16 版 (医学書院) 病気がみえる vol.7 脳・神経 (MEDIC MEDIA)
参考図書	
留意事項	予習、復習を行い、疑問点をそのままにせず、質問する。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科学Ⅰ	松本 祐希	2	1	前期	必修

◇講義概要

整形外科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（各部位の疾患及び外傷）について学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

運動器の基本的構造を理解し、運動器疾患を理解することにより 各疾患 各部位に対するリハビリテーションの基本を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	整形外科総論 運動器の構造	講義	
第 2 回	整形外科総論 運動器の現症の取り方	講義	
第 3 回	整形外科総論 運動器の検査法	講義	
第 4 回	整形外科総論 運動器の検査法	講義	
第 5 回	整形外科総論 運動器の治療総論	講義	
第 6 回	整形外科総論 運動器の治療総論	講義	
第 7 回	運動器： 手関節と手の構造と疾患	講義	
第 8 回	運動器： 手関節と手の外傷	講義	
第 9 回	運動器： 肘と前腕の構造と疾患	講義	
第 10 回	運動器： 肘と前腕の外傷	講義	
第 11 回	運動器： 肩関節の構造と疾患	講義	
第 12 回	運動器： 肩関節の外傷	講義	
第 13 回	運動器： 膝関節の構造と疾患	講義	
第 14 回	運動器： 膝関節の外傷	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第2版 (MEDIC MEDIA)
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科学Ⅱ	松本 祐希	2	1	後期	必修

◇講義概要

整形外科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（各部位の疾患及び外傷）について学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

運動器の基本的構造を理解し、運動器疾患を理解することにより 各疾患 各部位に対するリハビリテーションの基本を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	運動器： 股関節の構造と疾患	講義	
第 2 回	運動器： 股関節の外傷	講義	
第 3 回	運動器： 足関節・足の構造と疾患	講義	
第 4 回	運動器： 足関節・足の外傷	講義	
第 5 回	関節リウマチ	講義	
第 6 回	関節リウマチ	講義	
第 7 回	運動器の感染性疾患	講義	
第 8 回	運動器の感染性疾患	講義	
第 9 回	骨壊死性疾患	講義	
第 10 回	骨壊死性疾患	講義	
第 11 回	骨粗鬆症とロコモティブシンドローム	講義	
第 12 回	骨粗鬆症とロコモティブシンドローム	講義	
第 13 回	末梢神経の障害	講義	
第 14 回	末梢神経の障害	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第2版 (MEDIC MEDIA)
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経内科学Ⅰ	辻井 啓之	2	1	前期	必修

◇講義概要

神経内科学Ⅰにおいては、中枢神経系の解剖と機能、神経学的診断と評価、症候学と神経内科学Ⅱを理解するための基礎を学ぶ。大変重要な部分なので、十分な理解を目指す。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患における中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともに中心となっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	序論	講義	
第 2 回	中枢神経系の解剖と機能	講義	
第 3 回	神経学的診断と評価	講義	
第 4 回	神経学的検査法	講義	
第 5 回	意識障害・脳死・植物状態	講義	
第 6 回	頭痛・めまい・失神	講義	
第 7 回	運動麻痺・錐体路徴候・筋委縮	講義	
第 8 回	錐体外路徴候・不随意運動	講義	
第 9 回	運動失調・感覚障害	講義	
第 10 回	高次脳機能障害Ⅰ（失認・失語・失行）	講義	
第 11 回	高次脳機能障害Ⅱ（注意障害・遂行機能障害）	講義	
第 12 回	構音障害	講義	
第 13 回	嚥下障害	講義	
第 14 回	脳神経外科領域の疾患	講義	
第 15 回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第 6 版（医学書院）
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。シラバスの各回は、教科書に則しているの、該当箇所の予習・復習を行うこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経内科学Ⅱ	辻井 啓之	2	1	後期	必修

◇講義概要

神経内科学Ⅱでは神経疾患各論、神経疾患合併症を取り扱う。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患において、中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともにますます重要になっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。神経内科学Ⅰで学んだ症候学の知識をもとに、十分な理解を目指してほしい。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	脳血管障害	講義	
第2回	認知症	講義	
第3回	脳腫瘍	講義	
第4回	外傷性脳損傷（軸索障害を含む）	講義	
第5回	脊髄疾患	講義	
第6回	変性疾患（錐体外路系を除く）・脱髄疾患	講義	
第7回	錐体外路の変性疾患	講義	
第8回	末梢神経障害	講義	
第9回	てんかん	講義	
第10回	筋疾患	講義	
第11回	感染性疾患	講義	
第12回	中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患	講義	
第13回	小児神経疾患	講義	
第14回	神経疾患に多い合併症	講義	
第15回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版 （医学書院）
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進捗度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。シラバスの各回は、教科書に即しているのので該当ヶ所の予習・復習を行うこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学 I	岸本 年史	2	1	前期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（器質性精神障害、機能的な精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、老年期の障害）について学ぶ。
--

◇到達目標

各精神疾患の特徴と疾患原因の仮説を概説できる。 治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神障害の診断と評価	講義	
第2回	発達障害①総論・ASD	講義	
第3回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第4回	統合失調症	講義	
第5回	統合失調症	講義	
第6回	気分障害（1）大うつ病性障害	講義	
第7回	気分障害（1）大うつ病性障害	講義	
第8回	気分障害（2）双極性障害	講義	
第9回	気分障害（2）双極性障害	講義	
第10回	向精神薬総論	講義	
第11回	向精神薬各論	講義	
第12回	てんかん	講義	
第13回	パーソナリティ障害	講義	
第14回	質疑応答	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	こころの健康がみえる（メディックメディア）
参考図書	New Simple Step 精神科（総合医学社）
留意事項	事前に予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学Ⅱ	岸本 年史	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（器質性精神障害、機能性精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、老年期の障害）について学ぶ。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と疾患原因の仮説を概説できる。 治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神医学総論～前期の復習～	講義	
第2回	摂食障害	講義	
第3回	アルコール・薬物依存	講義	
第4回	動機付け面接～総論～	講義	
第5回	動機付け面接～各論～	講義	
第6回	自傷・自殺	講義	
第7回	精神遅滞	講義	
第8回	学習障害	講義	
第9回	認知症①アルツハイマー型・脳血管性	講義	
第10回	認知症②レビー小体型、その他	講義	
第11回	神経症性障害①	講義	
第12回	神経症性障害②	講義	
第13回	睡眠障害	講義	
第14回	質疑応答	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	こころの健康がみえる（メディックメディア）
参考図書	New Simple Step 精神科（総合医学社）
留意事項	事前に予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	大島 圭介	2	1	前期	必修

◇講義概要

1. 小児の成長と発達を学ぶ。
2. 小児期特有の基本的な生理と病気について学ぶ。

◇到達目標

1. 成人と違う小児の特性を理解する。
2. 小児の正常の成長・発達の過程とそれに影響を与える要素を理解する。
3. 多くの小児疾患に、遺伝的背景や発生段階での問題が影響していることを理解する。
4. 個々の小児疾患の病態や臨床的特徴や診断・治療などの概要を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論 1 小児の特性 成長と発達	講義	
第2回	総論 2 小児の栄養・保健 マスクリーニングと予防接種	講義	
第3回	総論 3 遺伝と発生の基礎知識 病態の理解のために	講義	
第4回	各論 1 新生児	講義	
第5回	2 遺伝性疾患と先天異常	講義	
第6回	3 神経筋疾患と骨系統疾患	講義	
第7回	4 循環器疾患 5 呼吸器疾患	講義	
第8回	6 免疫疾患とアレルギー 7 感染症	講義	
第9回	8 消化器疾患 9 肝胆道疾患	講義	
第10回	10 内分泌・代謝疾患	講義	
第11回	11 血液疾患 12 腫瘍性疾患	講義	
第12回	13 腎泌尿器疾患	講義	
第13回	14 心身医学・発達障害	講義	
第14回	15 関連領域	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	ナースとコメディカルのための小児科学 (へるす出版)
参考図書	病気がみえる vol.15 小児科 (医療情報科学研究所) 適宜有用なインターネットサイトを紹介したり、プリントを配布します。
留意事項	①受講前に、各講義の内容について教科書を見出し程度を大まかに確認しておくこと。 ②講義終了時に小テストをします。解答用紙を提出して退出すること。 ③参考図書は必ず買ってください必要はありません。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	前田 裕子	2	2	後期	必修

◇講義概要

疾病の原因及び形態的变化を主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。

◇到達目標

根拠に基づいた的確な治療を行なうには、正常な人間の構造を理解したうえで、病気の原因、あるいは経過についても正しい知識が必要となる。本講では、疾病のおこるメカニズムを病因別に学び、その不調がどのように現れるかという実践的な捉え方ができるようになることを目的とする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論 退行性病変、進行性病変	講義	
第2回	総論 代謝障害	講義	
第3回	総論 先天異常	講義	
第4回	総論 循環障害	講義	
第5回	総論 炎症・修復・免疫・アレルギー	講義	
第6回	総論 感染症	講義	
第7回	総論 腫瘍	講義	
第8回	中間試験・各論 循環器疾患	講義	
第9回	各論 血液疾患	講義	
第10回	各論 呼吸器疾患	講義	
第11回	各論 消化器疾患	講義	
第12回	各論 肝・胆・膵疾患	講義	
第13回	各論 泌尿生殖器疾患	講義	
第14回	各論 神経・筋・骨疾患	講義	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (30 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版 (医学書院)
参考図書	特になし
留意事項	各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、復習すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年学	辻井 啓之	2	1	前期	必修

◇講義概要

老年医学、基礎老化学、老年社会学の3つの側面について学ぶ。加齢に伴って生じるさまざまな課題について知り、生涯をより良く生きるための基礎を学ぶ。

◇到達目標

超高齢社会を迎えている日本において、高齢者の医療、リハビリテーションは、PT、OTにとって非常に大切な領域である。高齢者の特性について十分理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	序論・老化と老年病の考え方	講義	
第2回	加齢に伴う変化：生理的機能	講義	
第3回	加齢に伴う変化：運動機能	講義	
第4回	加齢に伴う変化：精神心理面	講義	
第5回	高齢者へのアプローチ	講義	
第6回	高齢者に多い症候と老年症候群	講義	
第7回	高齢者をとりまく環境	講義	
第8回	試験およびまとめ	試験・講義	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第6版 （医学書院）
参考図書	
留意事項	8回の講義では、教科書全般を網羅できない。十分「老年学」の重要性を理解すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床薬理学	前田 和宏	2	1	前期	必修

◇講義概要

本講義の臨床薬理学は、作業療法士にとって、2018年10月の理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則等改正に伴ってさらに重要な科目となった。また、学問体系として、この臨床薬理学は基礎となる薬理学の応用である。あらゆる機会・現場を通じて高品質なサービスを提供するために、作業療法士の教養の根幹である薬理学に加え、臨床薬理学のエッセンスを学ぶ。

◇到達目標

薬物の基本的事項について理解する
 ① 薬物の作用機序について説明できる
 ② 薬物の投与方法について説明できる
 ③ 薬物の体内動態について説明できる
 対象疾患に対する薬物療法について理解する
 ① 運動器系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ② 神経系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ③ 呼吸・循環器・代謝系疾患に対する薬物療法について説明できる
 ④ その他の疾患に対する薬物療法について説明できる
 薬物の副作用と多剤服用（ポリファーマシー）症状について理解する
 ① 薬物の副作用について説明できる
 ② 薬害について説明できる
 ③ 多剤服用（ポリファーマシー）症状について説明できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	薬理学総論：医薬品と、その適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネジメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性	講義	
第2回	感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第3回	神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第4回	精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第5回	循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	
第6回	疼痛の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。	講義	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第7回	注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 第2版 （医歯薬出版）
参考図書	特になし
留意事項	・資料の下調べをしておくこと（予習 60 分） 又は ・講義内容についてレポートまたはテキストをまとめること（復習 60 分）

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学	出水 典子	2	1	後期	必修

◇講義概要

障害者や高齢者の機能・活動・参加を最大限発揮するためのリハビリテーション栄養（栄養管理・栄養療法）の基礎を学ぶ。
--

◇到達目標

栄養の基礎について理解する。 五大栄養素の構造、消化・吸収・代謝や、特に消化・吸収を行う消化器官についての基礎的な知識を身につける。ただの豆知識ではなく、栄養学の基本から理解することを目標とする。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーション栄養とは、栄養補給ルート、消化と吸収	講義	Chapter7・13
第2回	同化異化、三大栄養素：糖質・脂質・タンパク質	講義	Chapter2～5
第3回	五大栄養素：ビタミン・ミネラル、酵素・ホルモン	講義	Chapter6・4
第4回	エネルギー代謝	講義	Chapter8
第5回	運動と栄養、運動効果を高める食事・栄養摂取	講義	Chapter9
第6回	リハビリテーションと栄養、栄養評価	講義	Chapter10・11
第7回	主な病態の栄養管理、摂食嚥下	講義	Chapter12・14
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	リハベーシック 生化学・栄養学 第2版（医歯薬出版）
参考図書	
留意事項	講義の最初に前回の講義内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害福祉論	島本 良重	1	1	前期	必修

◇講義概要

障害及び福祉に関する歴史的な背景を学び、基本的な内容を理解する

◇到達目標

基本的な概念を理解し、記述することができる 法令の理解 医学モデルと障害構造論の違いを理解することができる 海外の動向を知ることができる：脱施設化や地域生活
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	「障害」と「障害者」をどう理解するか	演習・講義	
第2回	障害者福祉に影響を与えた思想	演習・講義	
第3回	障害者福祉制度の流れを理解する	演習・講義	
第4回	生活支援と自立支援	演習・講義	
第5回	地域生活を支える	演習・講義	
第6回	障害者と社会	演習・講義	
第7回	障害者福祉の国際的動向	演習・講義	
第8回	まとめ	演習・講義	

評価方法	☒ 試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (10 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (30 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	スウェーデンの作業療法士が教える発達障害の子どもと楽しむワークショップ (かもがわ出版)
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	1	1	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と、社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。
--

◇到達目標

・リハビリテーション、作業療法の概要について説明できる ・ADL とは何か、ICF とは何かを説明できる ・多職種連携の効果や必要性を説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの理念と定義	講義	
第2回	健康と生活機能（1）	講義	
第3回	健康と生活機能（2）	講義	
第4回	機能障害とリハビリテーション治療	講義	
第5回	リハビリテーション医療の計画と多職種連携	講義	
第6回	他の職種 CW	講義	
第7回	他の職種 Ns	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	リハビリテーション医学（メジカルビュー社）
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	1	2	後期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と、社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。
--

◇到達目標

・リハビリテーション専門職として関わる代表的疾患についてその概要を説明できる。 ・SOAPによる記録の基礎を説明できる。 ・ICFの概要を説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	疾患調べ（心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科）	講義・演習	
第2回	疾患調べ（心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科）	講義・演習	
第3回	疾患調べ（心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科）	講義・演習	
第4回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第5回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第6回	観察記録 SOAP	講義	
第7回	観察記録 SOAP	講義	
第8回	ICF	講義	
第9回	ICF	講義	
第10回	ICF	講義	
第11回	リハビリテーション医療における ICT の活用	講義	
第12回	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル	講義	
第13回	地域包括ケアシステムとリハビリテーション医療	講義	
第14回	災害支援対策とリハビリテーション医療	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
教科書	リハビリテーション医学（メジカルビュー社）
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	三浦 康代	2	1	前期	必修

◇講義概要

公衆衛生とは組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長及び肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術であり、その基礎を学ぶ。

◇到達目標

1. 公衆衛生活動を歴史的に理解し、その発展過程を踏まえ、現在の健康政策を考察できる。
2. 集団としての健康を守るためのさまざまな健康指標について理解できる。
3. 公衆衛生の実際を対象別、場面別に実践内容と支援のあり方の概要について理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	公衆衛生とは（定義・対象・歴史・法的基盤） 公衆衛生のしくみ	講義	確認テスト
第2回	集団の健康をとらえるための手法——疫学・保健統計	講義	確認テスト
第3回	環境と健康	講義	確認テスト
第4回	感染症とその予防対策	講義	確認テスト
第5回	地域における公衆衛生の実践（母子保健・成人保健）	講義	確認テスト
第6回	地域における公衆衛生の実践（精神保健）	講義	確認テスト
第7回	地域における公衆衛生の実践（高齢者保健・歯科保健・障害者保健・難病保健・災害保健）	講義	確認テスト
第8回	終講試験（30分） 地方病撲滅までの闘い	講義	レポート

評価方法	■試験（ 60 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 30 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 第15版（医学書院）
参考図書	なし
留意事項	①テキスト・ノート・筆記用具持参 ②事前学習 適時指示する ③予習をしておくこと

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害者スポーツ論	中西 信之	2	1	前期	必修

◇講義概要

健康寿命の延伸を目標にパラスポーツ科目を通してスポーツレクリエーションを学ぶ。
実技ではスポーツ・レクリエーションにかかわる実技演習に取り組む。

◇到達目標

健康寿命の延伸を目標にスポーツ・レクリエーションの在り方を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーションとは	講義	
第2回	スポーツ・レクリエーションの狙い	講義・演習	
第3回	スポーツ・レクリエーションにおける生理学	講義・演習	
第4回	スポーツ・レクリエーションにおける心理学	講義・演習	
第5回	スポーツ未実施者とは	講義・演習	
第6回	スポーツ未実施者に対する取り組みと実践	講義・演習	
第7回	レク式体力チェック	講義・演習	
第8回	スポーツ未実施者に対するプログラム演習とレポートテスト	講義・演習	

評価方法	☐ 試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (50 %)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (50 %)	☐ その他 (%)

教科書	なし
参考図書	スポーツレクリエーション指導者養成テキスト
留意事項	グループワーク中心に学習とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法の全体像を把握する。保健・医療・福祉における作業療法の対象・手段・方法、職業倫理等について学ぶ。

◇到達目標

これから目指す作業療法士という職業について理解を深める。
各領域における作業療法士の役割について学ぶ。
プロフェッショナリズムの基礎的な力を養う。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義・演習	
第2回	作業療法とは何か	講義・演習	
第3回	作業療法と関連する学問 医学系科目と作業療法	講義	
第4回	作業療法の定義	講義	
第5回	作業療法の対象 ①精神障害	講義	
第6回	作業療法の対象 ②精神障害	講義	
第7回	作業療法の対象 ③高齢期の作業療法	講義	
第8回	作業療法の対象 ④高齢期の作業療法	講義・演習	
第9回	作業療法の対象 ⑤身体障害の作業療法	講義	
第10回	作業療法の対象 ⑥身体障害の作業療法	講義	
第11回	作業療法の対象 ⑦発達障害の作業療法	講義	
第12回	作業療法の対象 ⑧地域における作業療法	講義・演習	
第13回	作業療法の対象 ⑨地域における作業療法	講義	
第14回	作業療法と関連する職種と作業療法士の職業倫理	講義・演習	
第15回	試験およびまとめ	試験	

評価方法	☒ 試験 (40 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (40 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	予習復習を行い、理解度を高めることを心がけてください。 なお、『作業療法の対象』では、講義順序が変わることがあります。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業学	銀山 章代	1	1	後期	必修

◇講義概要

作業遂行の視点から、作業分析と指導法を学ぶ。
目的に応じた作業活動を企画し、実施する。

◇到達目標

作業が人に及ぼす影響について考え、伝えることができる。
作業の効果と使い方について、自分の意見可言える。
作業の効果を列挙し、効果やねらいに応じた活動を企画し、学生間で実施できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	基礎作業学とは何か。コースオリエンテーション	講義	
第2回	作業学の構造	講義	
第3回	作業ができるということ	講義	
第4回	作業を用いる条件 目的に応じた指導方法の違いを体験する（ストレッチ）	講義・実習	
第5回	目的に応じた指導方法の違いを体験する（手工芸） 作業の治療への適用（作業分析・目的・実施方法） 作業の企画を立案する（目的）	講義・実習	
第6回	作業の治療への適用 作業の企画を立案する（種目・実施方法）	講義	
第7回	作業の治療への適用 作業の企画を立案する（実施方法・必要物品・予算）	講義	
第8回	作業の企画を立案する（企画書の提出）	講義	
第9回	作業を実施する(1.2班)	講義・実習	
第10回	作業を実施する(3.4班)	講義・実習	
第11回	作業を実施する(5.6班)	講義・実習	
第12回	企画を修正し、修正案と短縮計画立案	講義	
第13回	修正部分を実施する(1. 2. 3班)	講義・実習	
第14回	修正部分を実施する(4. 5. 6班)	講義・実習	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☒ その他（ 課題 30 %）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 （メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	講義の前後に予習復習を行う事

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅰ（陶芸）	小川 一雅	1	1	前期	必修

◇講義概要

陶芸の基礎技法と、作業分析や指導法について実習を通して学ぶ。

◇到達目標

陶芸実技を通じて、陶芸作業全般を理解できることを目的とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	陶芸概説	実技	
第2回	実技 土練り製作テーマ（湯のみ）窯詰め		
第3回	実技 製作テーマ（茶わん）	実技	
第4回	本焼きのための釉かけ窯詰め（湯のみ）		
第5回	実技 製作テーマ（花器）	実技	
第6回	本焼きのための釉かけ窯詰め（茶わん）		
第7回	実技 本焼きのための釉かけ窯詰め（花器）	実技	
第8回	電動ロクロでの作品制作 完成作品（湯のみ、茶わんの評価）		

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（授業のなかで製作した作品 100%）

教科書	プリントを配布します。
参考図書	
留意事項	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅰ（木工）	稲葉 崇史	1	1	前期	必修

◇講義概要

木工の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

・本格的な木工の道具を使用することで、正しい道具の使い方を理解する。 ・昔ながらのホゾや組み手を使った家具を製作することで、木の特性を理解したものの作りを実施する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	木工道具の説明	実技	
第2回	基礎練習・四方胴付ホゾ加工 (1) ホゾ切り	実技	
第3回	基礎練習・四方胴付ホゾ加工 (2) ホゾ穴堀り	実技	
第4回	基礎練習・五枚組み継ぎ加工	実技	
第5回	花台製作 (1) 墨付け	実技	
第6回	花台製作 (2) ホゾ加工	実技	
第7回	花台製作 (3) 相欠き加工	実技	
第8回	花台製作 (4) 組み立て・塗装	実技	

評価方法	☐ 試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (100 %)
	☐ 小テスト (%)	☐ レポート (%)	☐ その他 (%)

教科書	プリント配布 (図面)
参考図書	特になし
留意事項	特になし

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅱ（織物）	小谷 憲子	1	1	前期	必修

◇講義概要

織物の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

マフラーを織りますが、一つでもミスをするとう直さないと先へは進めません。織りキズとして残ります。一つ一つの行動をまちががなく最後までつづける根気を身につけます。思い通りの色が出ないこともあり、気分的なムラが作品に反映されます。はじめから最後までミスなくコツコツと仕事をしていきましょう。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ハタの部品チェック。もじり通し、オサ通し。	実技	
第 2 回	もじり通し、オサ通し。	実技	
第 3 回	織り。	実技	
第 4 回	織り。	実技	
第 5 回	織り。	実技	
第 6 回	織り。房作り。	実技	
第 7 回	織り。房作り。	実技	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（作品の提出 80 %）
------	--

教科書	プリント配布。
参考図書	
留意事項	成績をつけます。100 点を目指しましょう。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅱ（手工芸）	石川 大	1	1	前期	必修

◇講義概要

手工芸の基礎技法と、作業分析や指導法について実習を通して学ぶ。

◇到達目標

様々な手工芸を体験し、指導できるようになる。 各作業に必要な道具と材料を知る。 作業の工程を理解し、種目の難易度・自由度など作業分析の項目に応じた段階付けを体験する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	作業の治療への適用	実技	
第2回	ポンポン手芸	実技	
第3回	ネット手芸	実技	
第4回	貼り絵	実技	
第5回	貼り絵	実技	
第6回	編み物	実技	
第7回	革細工	実技	
第8回	革細工	実技	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 40 %） ☒ その他（作品提出 60 %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 （メジカルビュー版）
参考図書	
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション概論	中西 信之	2	1	前期	必修

◇講義概要

レクリエーションの基本的概念の理解と意義・役割を学ぶ。

◇到達目標

レクリエーション活動を通してレクリエーションの概念的が理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション概論について	講義・演習	
第2回	楽しさと心の元気づくりの理論（集団心理とレク支援）	講義	
第3回	レクリエーション支援理論について（集団の特性と支援方法）	講義	
第4回	レクリエーション支援の方法	演習	
第5回	レクリエーション支援の方法（ものづくりから遊びへの誘い）	演習	
第6回	現場でのレクリエーション支援	演習	
第7回	レクリエーションの支援の方法1	講義・演習	
第8回	レクリエーションの支援の方法2	演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 50 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施。運動は学校の指定・上靴使用。※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります。 資格取得科目につき現場実習が課せられます。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	後期	必修

◇講義概要

レクリエーションには遊び、各種スポーツ、芸能活動などがあり、室内において少人数で行われるものから、戸外で多数が参加して行われるものまである。これらの活動を通して生じる発散、昇華、洞察等の精神的変化による効果について、実技を通して学ぶ。

◇到達目標

レクリエーションをとらえて医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	講義・演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践2	講義・演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 50 %） □小テスト（ %） ■レポート（ 50 %） □その他（ %）
------	---

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料、その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施。 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する。 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
多職種連携論	島本 良重	2	1	前期	必修

◇講義概要

保健医療福祉分野において多職種連携を必要とする社会的背景について知る。その上で、作業療法士が連携する様々な職種の役割・機能を知るとともに、多職種連携の展開方法について学ぶ。

◇到達目標

- ・「多職種連携」について、求められる背景や目的について述べるができる
- ・「リーダーシップ」について、その定義や「メンバーシップ」について述べるができる
- ・多職種連携 「チーム・アプローチ」について、合同授業を通して「多職種連携の実践の演習」を行う

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	多職種連携とチーム医療	講義・演習	
第3回	多職種連携とチーム医療	講義・演習	
第4回	リーダーシップ論	講義・演習	
第5回	リーダーシップ論	講義・演習	
第6回	チーム・アプローチの基本構造	講義・演習	
第7回	チーム・アプローチの基本構造	講義・演習	
第8回	チーム・アプローチにおける課題と対応	講義・演習	
第9回	チーム・アプローチにおける課題と対応	講義・演習	
第10回	多職種連携の実践（急性期）	講義・演習	
第11回	多職種連携の実践（在宅）	講義・演習	
第12回	チーム医療論 多職種連携5 学科合同授業	講義・演習	
第13回	チーム医療論 多職種連携5 学科合同授業	講義・演習	
第14回	まとめ	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 75 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 15 %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 （医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介をするので、参照すること。
留意事項	予習復習を行うこと。理解度チェックシートは、授業のポイントを記述すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。
また、作業療法における共通の評価法を講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・対象者を評価することの意義と目的を知り、説明することができる。
- ・自助具や福祉用具から今後関わる対象者の障害像をイメージできる。
- ・見学実習で作業療法士がどのように対象者の全体像を知ろうとしているのか、指導の下理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・校外学習（バリアフリー展）説明	講義	
第2回	校外学習（バリアフリー展）見学	講義	
第3回	校外学習（バリアフリー展）見学	講義	
第4回	校外学習（バリアフリー展）まとめ・発表準備	講義	
第5回	校外学習（バリアフリー展）発表	講義	
第6回	評価とは	講義	
第7回	見学実習に向けて	講義	
第8回	記録について（SOAP）	講義	
第9回	意識の評価、臨床検査値の読み方	講義・演習	
第10回	バイタルサインの測定	講義・演習	
第11回	形態計測①（四肢長・周径）	講義・演習	
第12回	形態計測②（握力・その他）	講義・演習	
第13回	作業療法理論（カナダ作業療法モデル）①	講義・演習	
第14回	作業療法理論（カナダ作業療法モデル）②	講義・演習	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ 発表（ 20 %） ☒ その他（提出物・持ち物管理など 20%）
------	--

教科書	作業療法評価学 第4版 （医学書院）
参考図書	
留意事項	形態測定演習時は、評価がしやすいように上下肢の肌を出すことができる服装で参加する。 授業資料をまとめられるようにフラットファイルを一枚準備し、初回授業に持参すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	2	後期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。
--

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第3回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第4回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第5回	関節可動域測定	講義・演習	
第6回	関節可動域測定	講義・演習	
第7回	関節可動域測定	講義・演習	
第8回	関節可動域測定	講義・演習	
第9回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第10回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第11回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第12回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第13回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第14回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第15回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第16回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第17回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第18回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第19回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第20回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第21回	排泄機能評価	講義・演習	
第22回	排泄機能評価	講義・演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第 24 回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第 25 回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第 26 回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第 27 回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第 28 回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第 29 回	まとめ	講義・演習	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %） ■実技試験（ 30 %） ■演習評価（ 20 %） ■小テスト（ 10 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版 （医学書院） 新 徒手筋力検査法 原著第 10 版 （協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた （南山堂） PT・OT のための画像のみかた 第 2 版 （金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。
--

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し説明、実施できる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義・演習	
第2回	協調性検査	講義・演習	
第3回	知覚検査	講義・演習	
第4回	知覚検査	講義・演習	
第5回	知覚検査	講義・演習	
第6回	知覚検査	講義・演習	
第7回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第8回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第9回	OSCE（協調性検査・知覚検査）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第10回	OSCE（協調性検査・知覚検査）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第11回	上肢機能検査	講義・演習	
第12回	上肢機能検査	講義・演習	
第13回	脳神経検査	講義・演習	
第14回	脳神経検査	講義・演習	
第15回	脳神経検査	講義・演習	
第16回	脳神経検査	講義・演習	
第17回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第18回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第19回	OSCE（上肢機能検査・脳神経検査）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第20回	OSCE（上肢機能検査・脳神経検査）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第21回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第22回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第 24 回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第 25 回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第 26 回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第 27 回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第 28 回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第 29 回	まとめ	講義	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %） ■実技試験（ 30 %） ■演習評価（ 20 %） ■小テスト（ 10 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版（医学書院） 新 徒手筋力検査法 原著第 10 版（協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） PT・OT のための画像のみかた 第 2 版（金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学の基礎 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で行われる様々な治療学に共通する理念を学ぶ。作業療法評価・介入の原理およびその形態、治療を行う上での心構えと、各種の疾患特性に合わせた治療各論の基礎的な知識や技術の枠組みを学ぶ。

◇到達目標

- ・ADL,IADL とは何か、またその評価方法を具体的に説明することができる。
- ・身体障害領域で行われる種々の治療理論について具体的に説明することができる。
- ・自助具作成を通して、環境調整と日常生活活動支援の関係について理解することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	ADL と IADL の概要 Barthel Index	講義	小テスト
第 2 回	評価法 (1) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第 3 回	評価法 (2) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第 4 回	自助具作成 (話し合い)	演習	
第 5 回	評価法 (3) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第 6 回	評価法 (4) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第 7 回	自助具作成 (作成)	演習	
第 8 回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法 1	講義	
第 9 回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法 2	講義	
第 10 回	ADL 支援の実際	講義	
第 11 回	自助具作成 (発表) 申請書、動画・画像データ提出	演習	
第 12 回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 1	講義	
第 13 回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 2	講義	
第 14 回	片麻痺の訓練 (BRS 法、ボバース概念、PNF、CI 療法)	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (10 %) ■小テスト (10 %) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第 3 版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
中枢神経障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	前期	必修

◇講義概要

中枢神経障害を生じる代表的疾患（脳血管障害、脊髄損傷等）の基本的な作業療法について理解する。 各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。
--

◇到達目標

・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。 ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。 ・中枢神経疾患の特徴を踏まえ、評価の計画・実施を援助の下行える。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	イントロダクション（授業概要説明・作業療法評価とは）	講義	
第 2 回	症例検討（治療理論に沿った評価）	講義	
第 3 回	患者モデル評価ガイダンス・評価準備①	講義	
第 4 回	患者モデル評価準備②	講義	
第 5 回	患者モデル評価準備③	講義	
第 6 回	患者モデル来校・評価実施①	講義・演習	
第 7 回	患者モデル来校・評価実施②	講義・演習	
第 8 回	患者モデル評価結果まとめ	講義	
第 9 回	患者モデル評価結果考察・共有	講義	
第 10 回	患者モデルレポート作成	講義	
第 11 回	疾患別治療学 脊髄小脳変性症	講義	
第 12 回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際①（実技を含む）	講義・演習	
第 13 回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際②（実技を含む）	講義・演習	
第 14 回	疾患別治療学 脊髄損傷	講義	
第 15 回	筆記試験	試験	

評価方法	■試験（ 30%） ■レポート（患者モデル 20%、GW 報告書 5%、最終ポートフォリオ 20%） ■その他（授業貢献度、持ち物・提出物管理など 25%）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第 3 版（メジカルビュー社）
参考図書	OT 症例レポート 赤ペン添削ビフォー・アフター
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを 1 部用意し、初回授業に持参すること

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
骨関節疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

骨関節障害を生じる代表的疾患（骨折、リウマチ等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

・ 整形外科疾患に対する作業療法について具体例を示し述べられる。 ・ リウマチに対する作業療法について具体例を示し述べられる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	総論 骨関節障害と作業療法	講義	
第 2 回	下肢、体幹の骨関節障害	講義	
第 3 回	手の骨折	講義	
第 4 回	末梢神経損傷	講義	
第 5 回	屈筋腱損傷	講義	
第 6 回	関節リウマチ	講義	
第 7 回	腱板損傷、熱傷	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第 3 版 （メジカルビュー社）
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経筋疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

末梢神経・筋の障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。 各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL への介入時の視点や実践方法を学ぶ。
--

◇到達目標

・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。 ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。 ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 ギランバレー	講義	
第3回	疾患別治療学 筋委縮性側索硬化症・筋ジストロフィー	講義	
第4回	疾患別治療学 重症筋無力症・多発性筋炎・皮膚筋炎	講義	
第5回	疾患別治療学 多発性硬化症	講義	
第6回	疾患別治療学 パーキンソン病	講義	
第7回	先進医療について	講義	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 (50%) ■レポート (授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 10%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内部障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

内部障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。 各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

・実習で必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。 ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。 ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 糖尿病	講義	
第3回	疾患別治療学 循環器疾患・心電図	講義	
第4回	疾患別治療学 呼吸器疾患	講義	
第5回	疾患別治療学 その他内部疾患	講義	
第6回	喀痰吸引（講義）	講義・演習	
第7回	喀痰吸引（実技）	講義・演習	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験（ 50%） ■レポート（授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%） ■その他（持ち物・提出物管理など 10%）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	前期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法	講義	
第2回	精神疾患と身体疾患の違い	講義	
第3回	精神科作業療法の概要	講義	
第4回	精神科作業療法の役割と環境設定	講義	
第5回	作業療法の特性	講義	
第6回	精神障害の ADL	講義	
第7回	治療構造	講義	
第8回	対象者と作業療法	講義	
第9回	精神科に求められる作業分析	講義	
第10回	作業特性を用いた治療	講義	
第11回	回復状態に応じた作業療法①	講義	
第12回	回復状態に応じた作業療法②	演習	
第13回	精神科作業療法の手順	講義	
第14回	統合失調症スペクトラムと作業療法①	講義	
第15回	統合失調症スペクトラムと作業療法②	講義	
第16回	作業遂行機能の評価	講義	
第17回	気分障害と作業療法①	講義	
第18回	気分障害と作業療法②	講義	
第19回	症例検討	講義	
第20回	中間試験	講義	
第21回	コミュニケーション技法	講義	
第22回	観察からの評価①	演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	観察からの評価②	演習	
第 24 回	精神認知機能の評価検査①	演習	
第 25 回	精神認知機能の評価検査②	演習	
第 26 回	他職種からの情報収集	講義	
第 27 回	評価した内容を統合と解釈する①	講義	
第 28 回	評価した内容を統合と解釈する②	演習	
第 29 回	前期のまとめ	講義	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (65 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (25 %) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第 3 版 (メジカルビュー社)、病気が見える vol.7 脳・神経 第 2 版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	後期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	認知症と作業療法①	講義	
第2回	認知症と作業療法②	講義	
第3回	神経症性障害と作業療法①	講義	
第4回	神経症性障害と作業療法②	講義	
第5回	パーソナリティ障害と作業療法	講義	
第6回	摂食障害と作業療法①	講義	
第7回	摂食障害と作業療法②	講義	
第8回	うつ病の患者の実際	講義	
第9回	うつ病の治療プログラム立案	演習	
第10回	集団の活用	講義	
第11回	集団力動を理解し、目的に合わせたプログラムの立案	演習	
第12回	医療観察法と司法精神科作業療法①	講義	
第13回	医療観察法と司法精神科作業療法②	演習	
第14回	精神科クリニックと精神科訪問リハの地域での取り組み	講義	
第15回	精神科訪問リハのプログラム立案	演習	
第16回	精神疾患の地域作業療法①	講義	
第17回	精神疾患の地域作業療法②	講義	
第18回	物質関連障害と作業療法①	講義	
第19回	物質関連障害と作業療法②	講義	
第20回	物質関連障害と作業療法③	講義	
第21回	中間試験と復習	講義	
第22回	対象者の身になる技法①	演習	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	対象者の身になる技法②	演習	
第 24 回	認知行動療法	講義	
第 25 回	精神障害者の就労支援	講義	
第 26 回	各疾患に合わせた作業療法アプローチ	講義	
第 27 回	精神疾患の回復過程に合わせたプログラム立案①	演習	
第 28 回	精神疾患の回復過程に合わせたプログラム立案②	演習	
第 29 回	後期のまとめ	講義	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (65 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (25 %) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第 3 版 (メジカルビュー社)、 病気が見える vol.7 脳・神経 第 2 版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動・発達障害Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	1	前期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。
--

◇到達目標

・発達期に障害を持つことの意味を考え、発達障害領域の作業療法の考え方を理解することができる ・各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを理解することができる ・定型発達を理解し、発達段階に応じた作業療法のアプローチの視点を説明することができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	発達障害領域の作業療法	講義	
第2回	構造化を探す ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第3回	自閉症スペクトラム障害に対するアプローチ	講義・演習	
第4回	TEACCH の理解	講義	
第5回	注意欠如多動性障害に対するアプローチ	講義・演習	
第6回	限局性学習障害に対するアプローチ ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	演習課題
第7回	SST について（大人）	講義・演習	
第8回	SST について（小児） ※コンパニオンアニマル同行授業	講義	
第9回	認知行動療法について（小児）	講義	
第10回	認知行動療法について（大人） ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第11回	知的障害に対するアプローチ	講義・演習	
第12回	摂食嚥下障害に対するアプローチ	講義	
第13回	事例検討－大人の発達障害	講義・演習	演習課題
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版 （メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動・発達障害Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	1	後期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。

◇到達目標

- ・発達期に障害を持つことの意味を考え、発達障害領域の作業療法の考え方を理解することができる
- ・各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを理解することができる
- ・定型発達を理解し、発達段階に応じた作業療法のアプローチの視点を説明することができる
- ・家族・地域を含めた支援についての理解を深めることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	作業の見方ー作業の発達と変容	講義	
第2回	発達障害領域の作業療法評価	講義・演習	
第3回	感覚統合機能に対するアプローチ	講義	
第4回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーについて	講義	
第5回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法アプローチ	講義・演習	
第6回	二分脊椎に対する作業療法アプローチ	講義・演習	小テスト
第7回	分娩麻痺に対する作業療法アプローチ	講義・演習	
第8回	ダウン症に対する作業療法アプローチ	講義・演習	小テスト
第9回	脳性麻痺に対するアプローチ（脳性麻痺について）	講義・演習	
第10回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第11回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第12回	医療的ケア児とその家族	講義・演習	小テスト
第13回	子どもの虐待の作業療法、保護者への対応	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年期障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	1	後期	必修

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。

◇到達目標

- ・制度と作業療法提供施設について、調べ述べることができる
- ・介護保険や各種サービスの内容について、資料を作成し表現することができる
- ・作業療法の介入について、作業療法過程に基づき評価計画を立案することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	高齢期と作業療法 社会的ニーズと高齢期作業療法	講義・演習	
第3回	社会制度	講義・演習	
第4回	作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳	講義・演習	
第5回	高齢期の作業療法	講義・演習	
第6回	高齢期における問題（排泄機能と動作）	講義・演習	
第7回	高齢期における問題（排泄機能，自己管理や支援）	講義・演習	
第8回	高齢者作業療法の実践事例 健康高齢者のケース	講義・演習	
第9回	高齢者作業療法の実践事例 要支援のケース 通所リハでMTDLP	講義・演習	
第10回	高齢者作業療法の実践事例 要介護者のケース 医療から在宅まで	講義・演習	
第11回	高齢者作業療法の実践事例 軽度の認知症高齢者のケース	講義・演習	
第12回	高齢者作業療法の実践事例 中等度の認知症のケース	講義・演習	
第13回	介護老人保健施設においてエンド・オブ・ライフ・ケアを実施したケース	講義・演習	
第14回	介護老人保健施設においてエンド・オブ・ライフ・ケアを実施したケース	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 70 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 10 %） ■小テスト（ 10 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第4版 （医学書院）
参考図書	逐次紹介するので参照してください
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
義肢装具学 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	後期	必修

◇講義概要

義肢、装具、リハビリテーション関連機器（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び構造）と基礎技能（製作、適合判定、訓練）の実習を行う。

◇到達目標

- *車いすシーティングについてその概要を説明することができる
- *義肢・装具の名称や対象疾患(障害)などの基礎知識と適合判定などの基礎技能を身に付ける
- *基本的なスプリントを作成することができ、対象疾患や使用方法などについて説明することができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	義肢装具学 総論	講義	
第2回	スプリントの種類	講義	
第3回	車いすシーティングとは	講義・演習	
第4回	車いすシーティングの実際	講義・演習	
第5回	上肢切断に対する義手	講義	
第6回	上肢切断に対する義手（実例をもとに考える）	講義	
第7回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第8回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第9回	スプリントについて	講義・演習	
第10回	スプリント製作実習（スプリントの構造・デザイン）	演習	
第11回	スプリント製作実習（装具のチェックアウト）	演習	
第12回	スプリント製作実習（短対立装具）	演習	
第13回	スプリント製作実習（カックアップ）	演習	
第14回	スプリント製作実習（PIP 伸展スプリント）	演習	レポート
第15回	試験（フィードバック含む）	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学（医学書院）
参考図書	適宜案内する
留意事項	毎回理解度チェックを提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害	清水 賢二	2	1	後期	必修

◇講義概要

記憶障害、注意障害、遂行機能障害や失行、失語、失認、認知症などの高次脳機能障害の作業療法について学ぶ。神経心理学や高次神経活動の基礎を含む。
--

◇到達目標

高次脳機能とその障害像について理解できる 症状に合わせた検査を選択することができる 作業療法プログラムを立案できるようになる
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	総論	講義	
第2回	脳の機能局在と画像診断	講義	
第3回	注意機能障害	講義・演習	
第4回	半側空間無視	講義・演習	
第5回	失行	講義・演習	
第6回	失語、復習	講義・演習	
第7回	記憶障害	講義・演習	
第8回	記憶障害	講義・演習	
第9回	視覚失認、その他の失認	講義・演習	
第10回	遂行機能障害、社会行動障害、アパシー	講義・演習	
第11回	高次脳機能検査	講義・演習	
第12回	総復習	演習・演習	
第13回	臨床推論	演習・演習	
第14回	臨床推論	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	高次脳機能障害学 第3版 （医歯薬出版）
参考図書	
留意事項	各講義の前後に教科書に目を通し、予習、復習を行うこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
職業関連活動	井上 宜子	2	1	後期	必修

◇講義概要

職業前関連活動の基礎（定義、歴史、作業療法士の役割、職業リハビリテーションと作業療法）と基礎技法（評価、指導計画、指導の実際－職業前訓練を含む。）について学ぶ

◇到達目標

1 職業リハビリテーションの基礎知識の取得
2 職業リハビリテーションを支える諸制度や施策について理解する
3 障害種別における職業リハビリテーションの実情について理解する
4 会社と本人をつなぐ支援機関及びその方法について理解する
5 職場で働く障害のある人の状況を理解する（当事者の思いの尊重）
6 1～5 の理解を踏まえ、職業リハビリテーションにおける評価、計画、モニタリングができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	職業リハビリテーションの概念とプロセス	講義	
第2回	就労支援の実際（見学と説明）	見学・講義	
第3回	就労支援の実際1（身体障がい）	講義	
第4回	就労支援の実際2（発達障がい）	講義	
第5回	就労支援の実際3（精神障がい）	講義	
第6回	就労支援の実際4（知的障がい）	講義	
第7回	障がいの定義と当事者の声	講義	
第8回	就業を考える1（障害者就業・生活支援センター、福祉サービス等）	講義	
第9回	就業を考える2（ジョブコーチ事業の実際）	講義	
第10回	就業を考える3（特例子会社の見学）	見学・講義	
第11回	当事者の声（50年以上にわたる職業生活と社会復帰の実際）	講義	
第12回	就業を考える生活1（生活支援（グループホーム・地域生活）における実際）	講義	
第13回	就業を考える生活2（障がい者基幹相談支援センターの活動について）	講義	
第14回	就業を考える生活3（保護者の立場から）	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	適宜プリントを配布
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習及び復習を行うこと

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法総合演習Ⅰ	森木 紀博	1	1	後期	必修

◇講義概要

臨床実習Ⅰに必要な知識と技能の整理と準備を行う。 実習までの書類作成を含めた準備を通して医療人としての基本的態度を学ぶ。

◇到達目標

・実習前の準備として職業人としての礼節を踏まえた挨拶、対応ができる ・見学実習で対象者のデマンド・ニーズを踏まえた情報収集ができる ・見学実習での感染などリスク管理に対応できる
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（臨床実習Ⅰ（1）に向けて）	講義	
第2回	職業人としての礼節（身だしなみ・コミュニケーション）①	講義・演習	
第3回	リスク管理について	講義・演習	
第4回	医療面接技法①	講義・演習	
第5回	オリエンテーション（臨床実習Ⅰ（2）に向けて）	講義	
第6回	職業人としての礼節（身だしなみ・コミュニケーション）②	講義・演習	
第7回	医療面接技法②	講義・演習	
第8回	試験（実技・筆記）	試験	

評価方法	■試験（30%） ■実技試験（30%） □演習評価（ %） □小テスト（ %） ■レポート（30%） ■その他（提出物・持ち物管理など 10%）
------	---

教科書	
参考図書	
留意事項	授業資料をまとめられるようにフラットファイルを一枚準備し、初回授業に持参すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法総合演習Ⅱ	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

臨床実習Ⅱ（OSCEを含む）に必要な知識と評価技能を中心に、確認・練習などの準備を行う。評価技能（評価計画と実施、ゴール設定、計画立案）を、演習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる
- ・施設の組織や作業療法の位置づけを知る
- ・臨床実習に向けて基礎的な知識や技能の準備ができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（実習について、OSCEについて）	講義	
第2回	社会人としての接遇（身だしなみ、挨拶、コミュニケーション）	講義・演習	
第3回	基本動作の知識・介助技能	講義・演習	
第4回	身体障害領域の知識・技能①（片麻痺の特徴と評価）	講義・演習	
第5回	身体障害領域の知識・技能②（関節可動域測定・各種機能検査）	講義・演習	
第6回	精神障害領域の知識・技能（対象者の身になる技法）	講義・演習	
第7回	老年期の知識・技能（老年期の生理的变化など）	講義・演習	
第8回	筆記試験・pre-cc-OSCE	試験	

評価方法	☒ 試験（ 40 %） ☒ 実技試験（ 40 %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☒ その他（ポートフォリオ 10 %）
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	初回講義時にポートフォリオ用フラットファイルを一枚準備すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域作業療法学Ⅰ	辰己 一彦	1	1	後期	必修

◇講義概要

地域包括ケアシステムや多職種連携の理解等、地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。
--

◇到達目標

・活動と参加に焦点を置きながら、地域作業療法の支援方法を理解する。 ・地域包括ケアシステムの概要について理解する。 ・地域作業療法における多職種連携の意義や実際について理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	日本の現状、地域生活と作業療法 地域リハビリテーションについて	講義	
第2回	地域包括ケアシステムについて、介護予防事業	講義	
第3回	作業療法士が関わる関連法規 社会保障制度、介護保険法	講義	
第4回	作業療法士が関わる関連法規 障がい者総合支援法、特別支援教育	講義	
第5回	多職種連携について	講義	
第6回	各事業所の実践 訪問作業療法（事例）	講義	
第7回	各事業所の実践 通所介護、通所リハビリテーション 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、特定施設入居者生活介護	講義	
第8回	各事業所の実践 精神障害領域における地域作業療法 認知症対応型共同生活介護、共同生活援助	講義	
第9回	各事業所の実践 就労支援、就労移行支援	講義	
第10回	各事業所の実践 児童発達支援	講義	
第11回	各事業所の実践 民間企業	講義	
第12回	地域作業療法に必要な知識 評価方法	講義	
第13回	地域作業療法に必要な知識 リスク管理	講義	
第14回	地域作業療法に必要な知識 MTDL	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 改訂第2版（メディカルビュー社） 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版（日本作業療法士協会）
参考図書	地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版（日本作業療法士協会）
留意事項	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域作業療法学Ⅱ	辰己 一彦	2	1	前期	必修

◇講義概要

生活行為向上マネジメントを通じて地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。

◇到達目標

・活動と参加に焦点を置きながら、地域作業療法の支援方法を理解する。 ・生活行為向上マネジメントを実戦形式で学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	就労支援における地域作業療法 「地域における高次脳機能障害支援センターの役割」	講義	
第2回	「地域における脳外傷者の実際」	講義	
第3回	生活行為向上マネジメントについて 概論	講義	
第4回	生活行為向上マネジメントについて 概論	講義	
第5回	生活行為向上マネジメントについて 支援事例	講義	
第6回	生活行為向上マネジメントについて 支援事例	講義	
第7回	生活行為向上マネジメントについて 実践1（患者モデル）	講義	
第8回	生活行為向上マネジメントについて 実践2（患者モデル）	講義	
第9回	生活行為向上マネジメントについて 実践3（患者モデル）	講義	
第10回	生活行為向上マネジメントについて 実践4（患者モデル）	講義	
第11回	生活行為向上マネジメントについて（発表）	講義	
第12回	生活行為向上マネジメントについて（発表）	講義	
第13回	地域作業療法の実践 発達障がい児編	講義	
第14回	地域作業療法の実践 在宅リハビリテーション編	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	配布資料 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版（日本作業療法士協会）
参考図書	地域作業療法の実践 発達障がい児編 地域作業療法の実践 在宅リハビリテーション編
留意事項	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生活環境学	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

住環境整備に関する基礎的な知識や手法等について理解する。その上で、対象者の特徴を考慮した生活環境への適切な支援について学ぶ。
--

◇到達目標

・ OT に求められる住環境整備の方法について説明できる。 ・ 疾患・障害別の住環境整備の方法について説明できる。 ・ 車椅子のシーティングの方法について説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	住環境整備の意義	講義	
第 2 回	住環境整備の進め方と留意点	講義	
第 3 回	OT が理解すべき建築知識と移動用福祉用具（1）	講義	
第 4 回	OT が理解すべき建築知識と移動用福祉用具（2）	講義・演習	
第 5 回	疾患・障害別にみる住環境整備（1）	講義	
第 6 回	疾患・障害別にみる住環境整備（2）	講義	
第 7 回	疾患・障害別にみる住環境整備（3）	講義	
第 8 回	疾患・障害別にみる住環境整備（4）	講義	
第 9 回	ST の ADL リハビリ	講義	
第 10 回	PT の ADL リハビリ	講義	
第 11 回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第 12 回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第 13 回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第 14 回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	OT・PTのための住環境整備論 第3版（三輪書店）
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは毎回提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅰ（Ⅰ）	石川 大	1	2	前期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、作業療法場面の見学を通して、対象者や組織に所属する医療人としての基本的態度（常識的態度・責任ある行動・自己管理・意欲）について学ぶ。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。

◇到達目標

- ・職業人としての常識的態度を身につける
- ・責任ある行動を身につける
- ・意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける
- ・デイリーノートや観察記録を正しく書くことができる
- ・見学した施設の特徴と作業療法士の役割について理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
5日間 × 2施設	臨床実習施設における見学実習 ◇施設見学 ・施設全体を見学することで、施設の特徴と役割や多職種連携を学ぶ ◇作業療法場面の見学 ・作業療法の対象となる疾患や障害を学ぶとともに、作業療法士の役割を見学により学ぶ ・作業療法士の治療場面を見学し、目的などについて考え、デイリーノートおよび観察記録に記録する ◇対象者との簡単なコミュニケーション ・対象者の方とコミュニケーションを行わせていただき、事前に学内で学んだ礼節ある態度の実践を行う ・実際に会話した内容については観察記録に記録する	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 30 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（セミナー・学内評価 70%）
------	--

教科書	なし
参考図書	なし
留意事項	臨床実習の手引きに則るため、事前に手引きをよく読み理解すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅰ（2）	石川 大	1	1	後期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、作業療法場面の見学を通して、対象者や組織に所属する医療人としての基本的態度（常識的態度・責任ある行動・自己管理・意欲）について学ぶ。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。

◇到達目標

- ・職業人としての常識的態度を身につける
- ・責任ある行動を身につける
- ・意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける
- ・デイリーノートや観察記録を正しく書くことができる
- ・見学した施設の特徴と作業療法士の役割について理解する

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
5日間 × 1施設	臨床実習施設における見学実習 ◇施設見学 ・施設全体を見学することで、施設の特徴と役割や多職種連携を学ぶ ◇作業療法場面の見学 ・作業療法の対象となる疾患や障害を学ぶとともに、作業療法士の役割を見学により学ぶ ・作業療法士の治療場面を見学し、目的などについて考え、デイリーノートおよび観察記録に記録する ◇対象者との簡単なコミュニケーション ・対象者の方とコミュニケーションを行わせていただき、事前に学内で学んだ礼節ある態度の実践を行う ・実際に会話した内容については観察記録に記録する	実習	

評価方法	☐ 試験（ %）	☐ 実技試験（ %）	☒ 演習評価（ 30 %）
	☐ 小テスト（ %）	☐ レポート（ %）	☒ その他（セミナー・学内評価 70%）

教科書	なし
参考図書	なし
留意事項	臨床実習の手引きに則るため、事前に手引きをよく読み理解すること

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅱ	籠島 段	2	3	後期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、作業療法士として許容される（評価を中心とした）臨床技能を対象者に実践する。指導者の作業療法の臨床思考過程を学び、作業療法の計画立案を実施する。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院等である。

◇到達目標

- *職業人としての基本的態度を取ることができる。
- *専門的な見地から対象者に接することができる。
- *教育課程で学んだ評価の手順を、作業療法臨床場面において実施することができる。
- *担当ケースについて、臨床実習終了後に行われるセミナーで発表できる形にまとめることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
15 日間 × 1 施設	学内にて オリエンテーション 検査・評価法の理解と実技練習 実習セミナー（ケースカンファレンス） 実習施設にて 施設見学，担当ケース紹介 担当ケース初期評価 （情報収集，作業療法評価，焦点化，治療目標・計画設定） レジュメ作成	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 30 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（実習セミナー・OSCE 他 70%）
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	臨床実習の手引きに則るため、事前に手引きをよく読み、理解すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅲ（1）	森木 紀博	3	2	前期	必修

◇講義概要

臨床総合実習に向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。
実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。

◇到達目標

- ・臨床総合実習先の職員、対象者に対して礼儀（身だしなみ）を以て対応・行動することができる。
- ・疾患特性を理解し、それに合わせた評価項目が列挙できる。
- ・各種書面の体裁を整え、ポートフォリオとして自分自身を振り返る機会を持つ。
- ・各種書面の提出期限を遵守し提出する習慣をつける（遅れる場合など、事前相談できる）。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	医療面接技法（医療面接の必要性）	講義・演習	
第3回	医療面接技法（医療面接の必要性）	講義・演習	
第4回	医療面接技法（医療面接の必要性）	講義・演習	
第5回	リスク管理と感染予防、身だしなみ	講義	
第6回	運動学（筋の起始停止・支配神経と触診についての基礎知識）	講義	
第7回	片麻痺患者の評価における基礎知識（BRSを中心に）	講義	
第8回	身体疾患と評価のマッチング（身障・老年・発達領域）、生活機能評価	講義	
第9回	各種評価の基礎知識①（ROM）	講義	
第10回	各種評価の基礎知識②（その他）	講義	
第11回	認知症の種類と検査における基礎知識	講義	
第12回	老年期の生理的变化（フレイル、ロコモなど）	講義	
第13回	精神疾患と評価のマッチング（精神・老年領域）	講義	
第14回	精神疾患と回復過程	講義	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ ポートフォリオ（ 40 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	ポートフォリオは各講義の資料・レポート、理解度アンケートなどを含み、各種提出状況や完成度を評価する。 筆記試験、ポートフォリオそれぞれ合格基準を満たす必要がある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅲ (2)	森木 紀博	3	2	後期	必修

◇講義概要

臨床総合実習に向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。
実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。

◇到達目標

- ・臨床総合実習先の職員、対象者に対して礼儀（身だしなみ）を以て対応・行動することができる。
- ・典型的な疾患に合わせた評価を対象者に対して説明と共に的確に行うことができる。
- ・自分が実施した内容を言語化し客観的に振り返ることができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	コミュニケーション技能と礼節（挨拶・自己紹介・身だしなみ）①	講義・演習	
第2回	コミュニケーション技能と礼節（挨拶・自己紹介・身だしなみ）②	講義・演習	
第3回	コミュニケーション技能と礼節（挨拶・自己紹介・身だしなみ）③	講義・演習	
第4回	片麻痺患者の評価①（BRSを中心に）	講義・演習	
第5回	片麻痺患者の評価②（その他評価）	講義・演習	
第6回	関節可動域の評価①	講義・演習	
第7回	関節可動域の評価②	講義・演習	
第8回	運動学（触診技能①）	講義・演習	
第9回	運動学（触診技能②）	講義・演習	
第10回	認知症検査（MMSE）	講義・演習	
第11回	起居・移乗介助技法①	講義・演習	
第12回	起居・移乗介助技法②	講義・演習	
第13回	精神疾患患者に対する対応技能（対象者の身になる技法①）	講義・演習	
第14回	精神疾患患者に対する対応技能（対象者の身になる技法②）	講義・演習	
第15回	技能試験（pre-cc-OSCE）	試験	

評価方法	□試験（ %） ■実技試験（ 80 %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） ■レポート（ 20 %） □その他（ %）
------	---

教科書	
参考図書	
留意事項	OSCEは4課題で実施し、OSCE後レポートでの合算とする。 OSCE、レポート共に合格基準点を満たす必要がある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習Ⅰ	森木 紀博	3	8	前期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握し、評価結果を基に行う作業療法について学ぶ。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院等である。

◇到達目標

- ・臨床実習Ⅱの成果を踏まえ、評価の手順を理解・実施し、レポートとしてまとめることができる。
- ・対象者の疾患特性に適切な評価・プログラムを提案できる。
- ・基本的な治療プログラムを実施できる。
- ・治療経過を振り返って再評価を行うことができる。
- ・実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
40 日間 × 1 施設	●実習施設にて ・施設見学，担当ケース紹介 ・担当ケース初期評価 (情報収集，作業療法評価，焦点化，治療目標・計画設定) ・治療実施 ・再評価，考察 ・レジュメ作成 ●学内にて ・オリエンテーション・実習準備 ・検査・評価法の理解と実技練習 ・実習セミナー（ケースカンファレンス） ・post-cc-OSCE	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ■実技試験（OSCE 30%） ■演習評価（実習地評価 30%） ☐ 小テスト（ %） ■その他（職業人としての適性 20%、実習セミナー20%）
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	実習地評価・学内評価ともにすべての項目（小項目含む）が60%以上を合格とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習Ⅱ	森木 紀博	3	8	後期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握し、評価結果を基に行う作業療法について学ぶ。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院等である。

◇到達目標

- ・対象者の疾患特性に適切な評価・プログラムを提案できる。
- ・基本的な治療プログラムを実施できる。
- ・治療経過を振り返って再評価を行うことができる。
- ・臨床実習Ⅱの成果を踏まえ、評価の手順を理解・実施し、レポートとしてまとめることができる。
- ・実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
40 日間 × 1 施設	●実習施設にて ・施設見学，担当ケース紹介 ・担当ケース初期評価 (情報収集，作業療法評価，焦点化，治療目標・計画設定) ・治療実施 ・再評価，考察 ・レジュメ作成 ●学内にて ・オリエンテーション・実習準備 ・検査・評価法の理解と実技練習 ・実習セミナー（ケースカンファレンス） ・post-cc-OSCE	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ■実技試験（OSCE 30%） ■演習評価（実習地評価 30%） ☐ 小テスト（ %） ■その他（職業人としての適性 20%、実習セミナー20%）
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	実習地評価・学内評価ともにすべての項目（小項目含む）が 60%以上を合格とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
卒業論文	森木 紀博	3	1	後期	必修

◇講義概要

臨床総合実習の担当ケース・レポートを論文の形式にまとめることで、学会発表等の予備訓練を行う。
--

◇到達目標

・論文とはどのようなものか、レポートとの違いを理解できる。 ・論文の基本的構成をふまえて、作成することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	論文とレポートの違いについて ・ 論文の基本的構成	講義	
第2回	論文作成の手順	講義・演習	
第3回	表記や引用のしかた ・ 引用、参考文献の書き方	講義・演習	
第4回	論文作成	演習	
第5回	論文作成	演習	
第6回	論文作成	演習	
第7回	論文作成	演習	
第8回	論文作成	演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（形式 30%、内容 30%） ☒ その他（基本的態度 30%、指導量 10%）
------	---

教科書	
参考図書	OT 症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター 羊土社
留意事項	臨床総合実習で担当したケースを論文としてまとめるため、必要資料を準備して臨むこと。 卒業論文評価表に基いて評価を行います。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法総合演習	渡邊 俊行	3	3	後期	必修

◇講義概要

基礎医学・臨床医学・作業療法専門科目の知識の確認と習得を行い、国家試験に備える。
--

◇到達目標

国家試験の出題範囲を網羅した試験において合格点に達することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 専門問題①	講義	
第2回	専門問題②	講義	
第3回	専門問題③	講義	
第4回	専門問題④	講義	
第5回	専門問題⑤	講義	
第6回	専門問題⑥	講義	
第7回	専門問題⑦	講義	
第8回	専門基礎問題①	講義	
第9回	専門基礎問題②	講義	
第10回	共通問題①	講義	
第11回	専門基礎問題③	講義	
第12回	専門基礎問題④	講義	
第13回	共通問題②	講義	
第14回	共通問題③	講義	
第15回	共通問題④	講義	
第16回	専門基礎問題⑤	講義	
第17回	専門基礎問題⑥	講義	
第18回	共通問題⑤	講義	
第19回	共通問題⑥	講義	
第20回	共通問題⑦	講義	
第21回	共通問題⑧	講義	
第22回	共通問題⑨	講義	

令和 7 年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 23 回	共通問題⑩	講義	
第 24 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（中間試験 30 %）
------	---

教科書	クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2026 共通問題第 18 版 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2026 専門問題第 17 版 （メディックメディア）
参考図書	理学療法士・作業療法士国家試験 必修ポイント 2026
留意事項	内部教員が講義を担当するため、教科書の順序とは変更があるので、留意すること。 また、講義に際しては、予習復習はしっかりと行い、積極的な姿勢で参加すること。